

2023年度

事業報告書

自 2023年4月 1日
至 2024年3月31日

目 次

第1	概要	1
第2	事業の状況	2
1.	「科学振興のための研究助成と研究交流」事業	2
2.	「国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流」事業	6
3.	「科学知識の普及・啓発」事業	11
第3	会議等	17
第4	その他の重要事項	21

【別表】

(1)	2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）	23
(2)	2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）	36
(3)	2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表	37
(4)	2023年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表	44
(5)	2023年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表	42
(6)	役員名簿	43
(7)	評議員名簿	44

第1 概要

社会的課題の解決や経済再生の原動力として、科学技術とイノベーションの一体的な推進が求められている。科学・技術の振興には、研究投資や研究者の育成に加え、広く一般市民の科学への関心向上が不可欠である。

また、中国を始めとしたアジア諸国への図書寄贈等を通じた文化交流については、日本関係図書へのニーズの高まりに応じて各国大学図書館に対する寄贈を継続・開始するなど、揺れ動く世界情勢の中でも、着実な進展を見せている。

2023年度事業実施にあたっては、評議員、理事等の助言を受け、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受け、以下の目的達成に努めた。

1. 科学・技術に関する若手人材の育成、研究の全国的な掘り起こしを図るため、316件の科学研究助成を行った。2023年度は、研究助成金の上限額を100万円から150万円に増額し研究を支援した。また、助成を受けた研究者の研究成果発表を支援することで、学術成果の広範な浸透・普及を図った。

2. 日本で収集した日本関係図書をタイ、インド、ウズベキスタン、フィリピンの各大学に合計1,430冊寄贈することにより、アジア諸国における日本文化の理解促進を図るとともに、中国で「日本知識大会」、日中双方向の「作文コンクール」「日本研究論文コンクール」等を開催することにより、日中間の相互理解の促進と友好意識の醸成に寄与した。

3. 経験豊かな専門家による中学生・高校生への研究指導（メンター）の実施により、科学・技術を担う人材の育成に努めるとともに、本会が独自に製作したWebコンテンツ（科学実験のデータベース、Web版科学体験まつり）や、様々な分野のセミナーを開催することで、科学への関心を高め、理解を深めることに努めた。

第2 事業の状況

1. 「科学振興のための研究助成と研究交流」事業

【事業経費：304,570,726円（間接経費を除く）】

本事業の1)～6)については、ポートレース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施し、7)については、笹川科学活性化基金事業として実施した。

(1) 内 容

1) 若手研究者の研究奨励（学術研究）

- ① 名 称：笹川科学研究助成
- ② 対象領域：人文・社会科学および自然科学（医学を除く）
- ③ 助成件数：302件 ※別途研究中止1件
- ④ 助成金額：261,553,827円（1件当たり平均金額866,072円）

[別表(1) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）]

- ⑤ 申請資格：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者

※『海に関係する研究』は正規雇用者も含む

2) 特定分野の研究奨励（実践研究）

- ① 名 称：笹川科学研究助成
- ② 対象領域：
 - a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究
学校、NPOなどに所属している方が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究
 - b. 学芸員・司書等が行う調査・研究
学芸員・司書等が生涯学習施設の活性化に資する調査・研究
- ③ 助成件数：14件 ※別途研究中止2件
- ④ 助成金額：4,622,787円（1件当たり平均金額330,199円）

[別表(2) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）]

- ⑤ 申請資格：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など



	対象領域	助成件数
学術研究	人文・社会系	32件
	数物・工学系	34件
	化学系	34件
	生物系	164件
	複合系	38件
実践研究	教員・NPO職員等	9件
	学芸員・司書等	5件
合計		316件

3) 研究成果公表支援（海外発表助成）

① 2023年度海外発表促進助成

- a. 申請資格：笹川科学研究助成を受けた者
- b. 助成件数：63件 ※別途辞退2件
- c. 助成金額：15,027,496円（1件当たり平均金額238,532円）

[別表(3) 2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表]

② 2024年度海外発表促進助成の募集案内および第1期助成計画策定

4) 「笹川科学研究奨励賞」の選出及び授与

① 「笹川科学研究奨励賞」の選出

2023年度笹川科学研究助成者の中から、笹川科学研究助成選考委員会で、16名（研究領域ごとに2名ずつ。ただし、生物系は4名）を選出した。選考に当たっては単に研究の内容や成果だけに捉われず、研究に対する取組み姿勢なども評価した。

[別表(4) 2023年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表]

② 「笹川科学研究奨励賞」の表彰及び研究発表

2022年度に選出された16名に対して、笹川科学研究奨励賞を授与し、賞状及び副賞（100,000円）を贈呈した。また、受賞者の研究発表動画を作成し、Webサイトで公開した。

5) 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

2023年4月21日（金）にANAインターコンチネンタルホテル東京において「研究奨励の会」等を開催し、約300名が参加した。

① 「研究発表会」

笹川科学研究助成奨励賞受賞者による受賞記念発表会を開催した。

② 「研究奨励の会」

2023年度笹川科学研究助成の交付決定通知書を手交した。

③ 「研究者交流会」

若手研究者間の情報交換の会を開催した。



6) 研究助成の推進

① 2024年度笹川科学研究助成計画原案の作成

a. 募集計画策定等

「募集要項および選考方針」については、笹川科学研究助成事業委員会で、また、「選考基準および選考細則」については、笹川科学研究助成領域別選考委員会の議を得て策定した。各系の中から「海に関係する研究」を重点テーマとして拾い上げる事で、より広い意味での海洋関連科学への助成を行うことができた。

若手研究者の置かれている厳しい研究状況を分析し、一人当たりの助成上限額を増額することで、より自由な研究が行えるようになった。

b. 公募

大学、研究機関、学会、博物館、図書館等約2,200箇所、また過去に笹川科学研究助成を受けた者やその関係者約6,300名に募集のためのメール配信を行った。さらに募集ポスターを作成し、大学約800箇所に対して送付するなど、広く周知した。

a) 募集期間：2023年9月15日～2023年10月16日

b) 応募件数：1,395件の研究計画の申請を受付した。

（学術研究 1,349件、実践研究 46件）

c. 助成計画原案の作成

笹川科学研究助成領域別選考委員会での審査選考を経て、2024年度笹川科学研究助成計画原案を作成した。

② 2022年度笹川科学研究助成の研究報告書の整備

③ 研究助成実績資料の整備

7) 研究成果発表会の開催

過去助成者と企業の連携強化のために、継続的なフォローアップの充実を目指し、「海の産業利用」をテーマとした、研究成果の発表と質疑応答を行い、あわせてテーマに関する最新の取組についての基調講演を実施した。

- a. 開催時期：2023年10月27日（金）
- b. 開催場所：日本財団ビル2階 大会議室
- c. テーマ：「海の産業利用」
- d. 発表者：過去研究者の中から関連研究をしている研究者3名
- e. 参加者：海洋分野に関心をもった過去助成者および企業関係者(約50名)
- f. 協力先：一般社団法人 海洋産業研究会

(2) 事業成果等

2023年度の笹川科学研究助成の募集では、一人当たりの助成上限額を100万円から150万円に増額して募集を行った。助成上限額を増やしたことで、助成期間中の論文投稿数が昨年度と比較すると約1.5倍に増加した。研究成果が論文や学会等で発表されることにより、さらなる社会貢献となることを期待している。

また、本助成では、前年度の助成者の中から研究内容や成果、研究への取り組み姿勢において高く評価された者が笹川科学研究奨励賞に選出され、毎年4月に笹川科学研究助成「研究発表会」および「研究奨励の会」で発表と表彰を行っている。これらの様子を撮影し2本の動画をHP上で公開することで、次年度申請を考える方にも本制度の目的やメッセージを広く伝える事ができ、好評を得ている。

海外発表促進助成では、本年度は新型コロナウイルスの影響が落ち着き、世界各国で研究集会等が開催されたことから、申請数が大幅に伸びた。また、採択者はキャリアの浅い研究者や学生が多くを占めており、若手研究者へ重点を置いた支援につながっているものと考えられる。

2. 「国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流」事業

【事業経費：75,794,247円（間接経費を除く）】

本事業の1)～2)①～③については、ポートルース公益資金による日本財団の助成金を受けて実施し、2)④については、笹川科学活性化基金事業として実施した。

(1) 内 容

1) BOOK ENVOY PROJECT

① 図書の収集・寄贈

国際理解の深化と友好親善の増進に貢献することを目的に、日本国内において出版社、図書館、企業、大学、個人等への提供依頼を経て図書を収集し、寄贈先の教育・研究分野、地域性、蔵書内容等を考慮のうえ各大学等の要望に基づき寄贈図書を選定後、タイ、インド、ウズベキスタン、フィリピンの各大学に BOOK ENVOY PROJECT として寄贈した。

a. 図書収集：約 26,000 冊（提供件数：延べ 77 件）

b. 図書寄贈：アジア諸国等 合計 1,430 冊[寄贈大学数：4 大学（4ヶ国）]

2023年度 BOOK ENVOY PROJECT(アジア諸国等) 図書寄贈実績表

国	大学	寄贈時期	寄贈冊数
タイ	タマサート大学	2023年6月	238冊
インド	バナラスヒンドゥー大学	2024年3月	77冊
ウズベキスタン	世界経済外交大学	2023年5月	529冊
〃	〃	2024年3月	107冊
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校	2024年3月	479冊
合 計			1,430冊

② 寄贈対象大学の選定

図書寄贈に対するアジア各国の要望に応じて、ベトナムにおいては2大学、ウズベキスタンにおいては1大学を新規寄贈先として選定した。

a. 選定大学：3大学（2ヶ国）

- ベトナム国家大学ハノイ校 人文社会科学大学（ベトナム）
- 外国貿易大学ハノイ校（ベトナム）
- タシケント国立東洋学大学（ウズベキスタン）

※ベトナムの2大学は、現地で覚書調印式を開催。



b. 寄贈対象大学：

- 中国 合計 86 大学
- アジア諸国等 合計 8 大学 (5 ヶ国)

③ 英語版 web サイトの開設

2023 年 6 月に BOOK ENVOY PROJECT に係る英語版 web サイト等を新規作成して公開した。

2) 日中未来共創プロジェクト

① 笹川杯全国大学日本知識大会

中国の大学の日本語学習者の日本理解の深化と日本語教育の振興を目的として、日本知識を日本語で競う全国レベルのクイズ大会を中国で開催するとともに成績優秀者等の日本招聘を実施した。



a. 開催日：2023 年 11 月 4 日（予選）、5 日（決勝戦）

b. 開催大学：中国人民大学

c. 参加大学：97 大学（選手各 3 名/合計 291 名）

※中国の全日本語設置大学の約 1/5 大学が参加。

d. 結果：・団体戦 特等賞 1 大学、一等賞 2 大学、二等賞 8 大学
・個人戦 特等賞 1 名、一等賞 5 名、二等賞 6 名

※下線を付した大学及び個人並びに開催大学は、日本招聘。

② 作文コンクール

a. 笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（中国語版、日本語版）

中国の若者の日本に対する関心喚起と理解深化、日本に関する図書の読書促進を目的として、中国全国の大学生等を対象に、日本に関する図書の感想文コンクールを中日両語で開催するとともに、成績優秀者等の日本招聘を実施した。

a) 中国語版

- 共催機関：上海交通大学図書館
- 対象：中国全国の大学生、大学院生、博士課程在籍者
- 応募総数：191 点（19 大学図書館）
- 審査結果：一等賞 5 点（日本招聘）、二等賞 10 点、最高組織賞 5 大学図書館（トップ大学図書館の 1 名日本招聘）

b) 日本語版

- 共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター
- 対象：16 歳～35 歳の中国人

- 応募総数：1,928 点
- 審査結果：一等賞 4 点（副賞：日本招聘）、二等賞 8 点、三等賞 30 点、優秀賞 40 点

b. Panda 杯全日本青年作文コンクール

a) コンクールの開催

日本の若者の対中関心の喚起と対中理解の促進を目的に、中国外文局アジア太平洋広報センター、中華人民共和国駐日本国大使館との三者共催により、“中国”をテーマに日本語で応募の作文コンクールを開催するとともに成績優秀者等の中国訪問を実施した。

- 共催機関：中国外文局アジア太平洋広報センター
中華人民共和国駐日本国大使館
- テーマ：「@Japan わたしと中国」
- 対象：16 歳～35 歳の日本人
- 応募総数：846 点
- 審査結果：優秀賞 10 点、入選 10 点（中国訪問）、佳作 35 点
- 授賞式：2023 年 11 月 23 日、中華人民共和国駐日本国大使館で本コンクール入賞者に各賞を授与した。

b) 中国訪問の実施

日中相互理解の深化と友好交流の促進を目的として、本コンクールの優秀賞者等に訪中の機会を提供し、現地の若者との交流、文化体験、実地見学等のプログラムを実施した。また、本事業の一環として、笹川平和財団に協力して北京で日中未来創発ワークショップを開催した。

- 実施時期：2023 年 11 月 24 日～12 月 1 日（8 日間）
- 訪問先：北京、蘇州
- 訪中者：優秀賞、入選受賞者、引率者等 26 名

③ 中国の大学生等の日本招聘の実施

日中相互理解の深化と友好交流の促進を目的に、「日本知識大会」「本を味わい日本を知る作文コンクール」（中国語版、日本語版）の各成績優秀者等を対象に、Panda 杯訪中経験者の参加を得て合同日本招聘を実施し、日中未来創発ワークショップ（主催：笹川平和財団）への参加など日本の若者との交流、文化体験、実地見学等の多様なプログラムを実施した。



- a. 実施時期：2024年2月17日～2月24日（8日間）
- b. 訪問先：東京、山梨、長野、栃木、茨城
- c. 招聘者：合計40名
 - 「日本知識大会」関係者20名
 - 「本を味わい日本を知る作文コンクール」関係者20名
 - ・中国語版10名（2022年度延期分5名を含む）
 - ・日本語版10名（2022年度延期分5名を含む）

④ 笹川杯日本研究論文コンクール

中国の大学における日本研究の促進と日本語教育の振興を目的に、日本に関する研究論文コンクールを開催するとともに、コンクール成績優秀者の日本招聘を実施した。

- a. 共催機関：中国日語教学研究会、吉林大学
- b. 対象：中国全国の大学の日本語専攻学部生
- c. 応募総数：140編
- d. 審査結果：特等賞2編（日本招聘）、一等賞3編、二等賞9編、三等賞12編
- e. 日本招聘者：5名（2022年度延期分3名を含む）

※上記③の日本招聘と併せて実施。

（2）事業成果等

中国への図書寄贈では、輸入審査の厳格化により審査業務が停滞し2年弱に亘って寄贈不能の状況が続いていたが、在日本中国大使館を通じた審査機関への審査の迅速化要請、審査担当者との緊密な情報交換、公安局への事業登録を経て、本年度末までに約30,000冊の輸出見込みが立ち来年度早々には寄贈実施の予定である。アジア諸国等への図書寄贈において4大学（4ヶ国）の要望に応じ合計1,430冊の図書を寄贈したことは、日本理解の深化、日本語教育環境の整備に繋がるものと期待できる。また新規寄贈先として3大学（ベトナム、ウズベキスタン）を選定し、日越外交樹立50周年となるベトナムの2大学では学長等隣席のもと各調印式を開催したことは、日本に対する広範な関心喚起と理解深化のみならず民間の友好交流促進に繋がったものと期待できる。

日中交流活動では、コロナ禍を経て4年ぶりに開催した「日本知識大会」は、中国の全日本語学科設置大学（約500大学）の約1/5が参加する日本語教育界屈指のイベントであるが、参加者から「優秀な選手の中で日本知識を競うことができわくわくした」「参加準備の過程で日本への理解が深まった」との感想も聞かれるなど日本理解のみならず日本語学習者の相互交流を深める機会になったと期待できる。

また「Panda杯全日本青年作文コンクール」を開催し、コンクール史上最多となる応募数を獲得したことは、日本の広範な若者の中国に対する関心喚起と理解促進に繋がっ

たものと期待できる。さらに中国の大学生等の日本招聘については、Panda 杯訪中経験者から選定した有志学生 4 名の全日程参画を得て実施したが、中日双方の参加者から「相手国への理解や親近感が深まった」「日中交流活動を続けていきたい」との感想が聞かれるなど、相互理解と友好の深化のみならず国際人材の育成に繋がったものと期待できる。

広報面では、人民網を通じて配信した「日本研究論文コンクール」決勝戦動画（プレゼンテーション、質疑応答）は、再生数が合計 83,000 回（日本語版 52,000 回、中国語版 31,000 回）に達するなど大きな反響を得たが、本動画や優秀論文を始めとした広範なアウトプットは、日本語専攻学生、指導教員にとって模範教材となるものであり、中国における日本研究の振興に繋がるものと期待できる。さらにアジア諸国等への図書寄贈には専用 web サイトが無く中国以外の国での認知度はほぼ無かったが、英語版専用サイトの開設、日中各語版サイトの充実は、プロジェクトの認知度と信頼性の向上に繋がったものと期待できる。

外部支援獲得について、日本では講談社から CSR の一環として新刊図書 11,000 冊余（定価総額約 10,900,000 円）の寄贈を得た他、中国では 1 企業から「本を味わい日本を知る作文コンクール」（中国語版）に 20,000 元（約 400,000 円）相当の協賛を得た。また講談社から中国専用として受贈してきた 10,000 冊余/年の図書について、審査の厳格化による中国需要の低下、アジア諸国での新刊図書の需要拡大を考慮し、中国とアジア諸国等で共用できる旨の承諾を得たことは、有益図書の有効活用とアジア諸国等への寄贈事業の発展に繋がるものと期待できる。

3. 「科学知識の普及・啓発」事業

【事業経費：16,547,987円（間接経費を除く）】

本事業の1)～3)については、モーターボート競走法制定40周年記念事業として、4)については、主に笹川科学活性化基金事業として実施した。

(1) 内 容

1) 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

科学に高い関心を持つ中学生・高校生に対し、学校教育の枠にとらわれずに、専門研究者による科学研究の基礎指導を行った。

また、広く科学研究の基礎の定着を図るため、メンティと中高生・教員の希望者を対象に、統計及び研究倫理の講習を実施した。

- ① 研究指導数：12研究（うち6研究は2024年度も指導を継続する。）
- ② 指導方法：メールを主とし、必要に応じてZoomや実地での対面指導を行った。
- ③ 期 間：2023年4月～2024年3月
- ④ サイエンスメンタープログラム研究発表会：
 - a. 第15回サイエンスメンタープログラム研究発表会
 - a) 開催日：2023年7月30日
 - b) 場 所：アルカディア市ヶ谷
 - c) 内 容：メンティによる4件の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を行った。
 - b. 第16回サイエンスメンタープログラム研究発表会
 - a) 開催日：2024年3月17日
 - b) 場 所：アルカディア市ヶ谷
 - c) 内 容：メンティによる8件の研究発表（口頭発表・ポスター発表）を行った。



⑤ その他：

a. 統計講習

a) 科学研究体験ワークショップ

- 講師：陣内修氏（東京工業大学教授）
- 開催日：①2023年8月26日、8月27日 ②2024年3月10日、3月24日
- 開催形式：オンライン
- 参加者：①中高生20名 ②中高生36名
- 内容：全国各地の参加者が、小型コンピュータ(Raspberry Pi)にセンサをつけて温度・湿度などを測定し、統計解析を実践した。

b. 研究倫理の講習

a) 「信頼される研究とするために」

- 講師：村本哲哉氏（東邦大学准教授）
- 開催日：2023年7月30日
- 場所：アルカディア市ヶ谷
- 参加者：12名
- 内容：サイエンスメンタープログラム研究発表会の同日に、科学研究を進める上で必要な研究倫理について考える機会を提供した。

[別表(5) 2023年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表]

2) 科学実験データベースなどの Web 公開

伝承的な実験から最近開発されたユニークな実験まで、様々な科学実験事例を収集網羅したデータベースを Web サイト上で広く公開した。

- ① 委託先：兵庫教育大学原体験教育研究会
- ② 公開内容：Web サイト上で、原体験コラム 351 点、科学実験データベース 777 点を公開している。今年度は新規データを原体験コラムに 22 点、科学実験データベースに 12 点を追加した。



3) 子供たちへの科学実験体験

① 「Web 版科学体験まつり」の実施

子供達や親世代への科学実験の機会を容易にするため、オンライン上に「Web 版科学体験まつり」を作成し広く公開を行った。

今年度は、映像の分かり易さを更に向上させるため、映像制作会社に動画の作成を委託した。テロップ等を効果的に使った動画となり、対面での指導と同じように分かり易い実験ブースを作成することができた。

- a. 内容：Web サイト上で、実験ブース 30 点を公開している。今年度は新規実験ブースを 4 点追加した。
- b. 委託先：兵庫教育大学原体験教育研究会
- c. 実験・演示：兵庫教育大学原体験教育研究会
- d. 撮影・編集：公益財団法人ニッポンドットコム

② 「科学実験」イベントの開催

科学実験を行う機会の少ない島の子ども達を対象とし、サイエンスキューブ(移動式暗室)を用いた科学実験教室「島で行うサイエンスキャンプ」を兵庫県姫路市の家島で開催した。

今回は「光の不思議」「海水と塩の不思議」をテーマとし、実験やハーフミラーを使った無限鏡を製作した。身近にある「光」を題材とし、島の港で採取した海水を用いた実験をすることで子供たちがイベント後も科学への興味が持続するように工夫を行った。

- a. 講師：兵庫教育大学 原体験教育研究会
泉 伸一、國眼厚志、福井広和
- b. 開催日：2023 年 8 月 27 日



- c. 場 所：姫路市 家島公民館
- d. 参加者：小中学生と保護者約 30 名

4) サイエンスコミュニケーション

科学に関する様々な分野の専門家の知識を一般に広めることを通じて、科学・技術への興味や関心を高める一助となることを目指し、様々なコミュニケーションの機会を設けて啓発活動を行った。

① データ集録ワークショップ「東京スカイツリーで気圧をはかろう」

- a. 講 師：はしもとじょーじ（岡山大学環境生命自然科学学域教授）
 千秋 博紀（千葉工業大学惑星探査研究センター主席研究員）
- b. 開催日：2023 年 10 月 15 日
- c. 場 所：東京スカイツリー、千葉工業大学東京スカイツリーキャンパス
- d. 参加者：中高生・大学生・教員 33 名
- e. 内 容：東京スカイツリーのエレベーターを利用して、
 小型コンピュータ(Raspberry Pi)につけたセ
 ンサで気圧を測定し、その値からエレベーターの上昇速度を計算するワークショップを実施した。



② アストロバイオロジセミナー「地球外生命の探し方」

- a. 講 師：関根 康人（東京工業大学地球生命研究所所長）
- b. モデレーター：藤島 皓介（東京工業大学地球生命研究所准教授）
- c. 開催日：2024 年 1 月 21 日
- d. 場 所：東京工業大学地球生命研究所
- e. 開催形式：現地とオンラインのハイブリッド開催
- f. 参加者：(現地) 中高生 32 名、(オンライン) 中高生・一般 51 名
- g. 内 容：「地球外生命の探し方」というテーマで、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の研究拠点の一つである東京工業大学地球生命研究所にて、講演会とラボツアーを実施した。なお、講演会は Zoom でオンライン同時配信を行った。

③ 「人間の生命科学」テキストの公開

- a. 内 容：「人間の生命」を軸とするテキスト「人間の生命科学」を、教育機関向けの Web 版と一般向けのクルーズ版の 2 種類の形式でウェブサイトにて公開した。
- b. Web 版の授業等の利用状況：
大学 14 件 (1,130 名)、高等学校 8 件 (37 名)、専門学校等 3 件 (296 名)
- c. クルーズ版の利用状況：
新規利用登録 159 名

(2) 事業成果等

「中高生のためのサイエンスメンタープログラム」では、資質の高い中学生・高校生が、大学教授などの専門研究者から、一定の期間中科学研究の進め方を学ぶことで、より一層研究に打ち込むようになる、もしくは、早い段階から将来の目標を明確にするなど、生徒には多大な影響を及ぼしている。過去のメンティの中には、推薦入試で研究能力を評価されて大学に進学する者もあり、学業の成績が優秀なだけではない質の高い人材の育成に寄与している。顕著な例では、2021 年度のメンティが、エアロゾルの可視化手法の研究を高校生科学技術チャレンジ (JSEC2022) に応募して高い評価を受け、アメリカで行われる国際学生科学技術フェア (RegeneronISEF) の日本代表として参加した。

また、メンティの他に、科学研究を行っている中学生・高校生を対象として、統計学・研究倫理の講習を実施し、科学研究の基礎的な素養を身に着ける機会を提供した。

「科学実験データベースなどの Web 公開」では、これまでのデータの蓄積により、実験教室での利用や実験内容についての質問、テレビで映像を利用したいといった問い合わせがあった。

「子供たちへの科学実験体験」における、「Web 版科学体験まつり」の開催では、Web サイトに約 4,600 回のアクセスがあった。動画内に映像だけでなく、文字や図を重ねて表示し、原理の説明等も行うことで分かり易い映像を作成するなど、子ども達が興味を持って利用しやすくなるように工夫を行った。また、「島で行うサイエンスキャンプ」(以下、サイエンスキャンプ)では、小中学生を対象に約 30 人の親子が参加した。光と海に関する実験を行い、参加者は様々な実験に興味を持ち熱心に取り組んでいた。質疑応答では、子供たちから積極的に質問や意見が相次ぎ、科学への興味関心が高まったと感じた。事故等も無く盛況裡に終了し、科学新聞にイベント内容が掲載された。

「サイエンスコミュニケーション」では、主に中高生を対象として、小型コンピュ

ータを使って気圧を測る「データ集録ワークショップ」(以下、ワークショップ) や、地球以外の星での生命の存在の可能性を研究するアストロバイオロジーに関するセミナーを実施した。また、昨年引き続き「人間の生命科学」テキストを公開し、25の高校・大学等の教育機関での授業や講義に利用された。一般向けコンテンツの「クルーズ版」は、159名の新規利用登録があり、3年間の累計登録数は535名となった。

なお、サイエンスキャンプ及びワークショップについては、独立行政法人国立青少年教育機構「子どもゆめ基金」の助成金で実施したものである。

第3 会議等

(1) 理事会

1) 第34回理事会

① 開催年月日：2023年5月24日（オンラインにて開催）

② 議事事項と会議の結果：

- a. 第1号議案 2022年度事業報告書及び決算報告書の承認に関する件
全会一致で可決
- b. 第2号議案 第13回評議員会の開催に関する件
全会一致で可決
- c. 第3号議案 職員給与規程の一部改正に関する件
全会一致で可決

2) 第35回理事会

① 開催年月日：2024年3月12日（オンラインにて開催）

② 議事事項と会議の結果：

- a. 第1号議案 2024年度事業計画及び収支予算の承認に関する件
全会一致で可決
- b. 第2号議案 評議員選定委員会の外部委員の選任に関する件
全会一致で可決
- c. 第3号議案 顧問の選任に関する件
全会一致で可決
- d. 第4号議案 商議員の選任に関する件
全会一致で可決
- e. 第5号議案 職員就業規則等の一部改正に関する件
全会一致で可決
- f. 第6号議案 職員給与規程の一部改正に関する件
全会一致で可決
- g. 第7号議案 職員退職金支給規程の一部改正に関する件
全会一致で可決

なお、役員の名簿については〔別表（6）役員名簿〕のとおり。

(2) 評議員会

1) 第13回評議員会

① 開催年月日：2023年6月20日（オンラインにて開催）

② 議事事項と会議の結果：

- a. 第1号議案 2022年度決算報告書の承認に関する件
全会一致で承認

なお、評議員の名簿については〔別表（7）評議員名簿〕のとおり。

(3) 各種委員会

1) 笹川科学研究助成事業委員会

開催年月日	議事事項
(第 80 回) 2023 年 7 月 14 日	2024 年度笹川科学研究助成募集要項等の策定について
(第 81 回) 2023 年 11 月 13 日	2024 年度笹川科学研究助成選考方針の策定について
(第 82 回) 2024 年 3 月 4 日	1 2024 年度笹川科学研究助成の選考結果について 2 2024 年度海外発表促進助成の募集について

※いずれもオンラインにて開催した。

2) 笹川科学研究助成領域別選考委員会

領域	開催年月日	議事事項
数物・工学系	2023 年 12 月 14 日	2024 年度笹川科学研究助成の選考細則の策定について (※オンラインにて開催した。)
化学系	2023 年 11 月 24 日	
生物 (A) 系	2023 年 12 月 5 日	
生物 (B) 系	2023 年 11 月 22 日	
複合系	2023 年 11 月 29 日	
海洋関連研究	2023 年 12 月 13 日	
実践系	2023 年 12 月 12 日	
人文・社会系	2024 年 1 月 23 日	2024 年度笹川科学研究助成の申請課題の選考について (※オンラインにて開催した。)
実践系	2024 年 1 月 26 日	
人文・社会系	2024 年 3 月 11 日	2023 年度笹川科学研究助成に係る完了報告書の評価及び笹川科学研究奨励賞の選出について
数物・工学系	2024 年 3 月 14 日	
化学系	2024 年 3 月 5 日	
生物 (A) 系	2024 年 3 月 6 日	
生物 (B) 系	2024 年 3 月 7 日	
複合系	2024 年 3 月 13 日	
海洋関連研究	2024 年 3 月 7 日	
実践系	2024 年 3 月 13 日	

3) サイエンスメンター事業委員会

開催年月日	議事事項
(第11回) 2023年12月12日	2024年度サイエンスメンタープログラムの募集及び選考について

第4 その他の重要事項

(1) 内閣府

年月日	内 容
2023年6月22日	2022年度における事業報告書等の提出をした。
2024年3月27日	2024年度における事業計画書等の提出をした。

(2) 日本財団

年月日	内 容
2023年4月4日	2023年度笹川科学活性化基金の一部取崩について、承認された。
2023年4月15日	2022年度事業の完了報告書を提出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・日中未来共創プロジェクト（公益） ・日中未来共創プロジェクト（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）
2023年5月1日	「日中未来共創プロジェクト」に係る事業の内容変更について、日本財団へ変更届を提出した。
2023年6月2日	2022年度笹川科学活性化基金に係る報告を行った。
2023年10月10日	2023年度事業の進行報告書を提出した。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・日中未来共創プロジェクト（公益） ・日中未来共創プロジェクト（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）
2023年10月13日	2024年度事業実施のため、助成金交付申請を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流（公益） ・国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）

年月日	内 容
2024年1月30日	2022年度事業の監査を実施した。(2024年3月18日、結果を受理)
2024年2月8日	基金事業に関する監査の覚書を締結した
2024年2月28日	2024年度助成事業の審査結果を受理した。
2024年3月22日	2024年度の笹川科学活性化基金の取崩に係る承認申請を行った。
2024年3月28日	2024年度事業の助成契約を締結した。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学振興のための研究助成と研究交流（公益） ・科学振興のための研究助成と研究交流（海洋） ・国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流（公益） ・国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流（海洋） ・基盤整備（公益） ・基盤整備（海洋）

(3) その他

年月日	内 容
2023年4月3日	「令和5年度子どもゆめ基金」から、次のイベントの助成金交付決定の通知を受けた。 <ul style="list-style-type: none"> ・島で行うサイエンスキャンプ ・データ集録ワークショップ
2023年12月27日	「令和5年度子どもゆめ基金」へ「島で行うサイエンスキャンプ」の助成活動実績報告書を提出した。
2023年12月27日	「令和6年度子どもゆめ基金助成金」に、次のイベントの助成申請をした。 <ul style="list-style-type: none"> ・データ集録ワークショップ ・島で行うサイエンスキャンプ
2023年12月28日	「令和5年度子どもゆめ基金」へ「島で行うサイエンスキャンプ」の助成金額の確定通知を受けた。
2024年3月12日	「令和5年度子どもゆめ基金」へ「データ集録ワークショップ」の助成活動実績報告を提出した。
2024年3月25日	「令和5年度子どもゆめ基金」へ「データ集録ワークショップ」の助成金額の確定通知を受けた。

別表(1) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表(学術研究)

(単位:円)

No.	対象領域	助成者名	所属機関:名称	所属機関:職名	研究課題	確定助成金額
1	人文・社会	加登 遼	大阪公立大学生活科学研究科 居住環境学科	助教	コロナ禍を契機としたアーバン・エクソダスに着目した大都市圏周辺都市の新たな移住施策	750,000
2	人文・社会	楊 雅韻	京都大学大学院文学研究科現代文化学メディア文化学	博士後期課程3年	近現代日本における化粧と女/男の境界線—イメージ・モノ—	600,000
3	人文・社会	根木 優気	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻	博士後期課程1年	地方移住者は「外の人」か「地域の人」か?—ルーラル・ジェントリフィケーションの人類学	361,720
4	人文・社会	楠田 悠貴	東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野	博士後期課程3年	フランス革命期・ナポレオン統治期にイギリス革命史を読む、書く	800,000
5	人文・社会	中東 友幸	東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻	博士後期課程6年	バイアスのある仲介者と観衆費用:スーダンを事例に	950,000
6	人文・社会	高橋 亮一	國學院大学文学部史学科	非常勤講師	大正・昭和期日本における海洋生物保護の展開—ラッコ・オットセイを中心に—	830,446
7	人文・社会	柴原 聡一郎	奈良市埋蔵文化財調査センター	学芸員	ドローンレーザー測量による4世紀天皇陵の研究	850,000
8	人文・社会	廖 嘉祈	東京大学大学院	博士課程4年	明治維新と近世中国の政治概念—幕末日本における宋・明史受容を手がかりに—	300,000
9	人文・社会	馬 歌陽	早稲田大学大学院文学研究科美術史学コース	博士後期課程5年	南朝時代における中国の仏教美術に関する研究—5~6世紀の南渡士族による石窟造営活動に着目して	1,250,000
10	人文・社会	岡本 孝信	学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻	博士後期課程3年	ヴァイキング侵略期イングランドの統治構造—聖職者を中心に—	960,000
11	人文・社会	土井 冬樹	神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート	協力研究員	伝統芸能の舞台化と近代化:先住民マオリの伝統芸能大会の開催とその変遷	750,000
12	人文・社会	沖津 奈緒	杏林大学保健学部健康福祉学科	講師	「わが子の不登校」を経験した母親がウェルビーイングに至るパーソナルリカバリー	362,709
13	人文・社会	青木 慧	東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学音楽学専攻	博士後期課程4年	江戸期吉原遊廓を発祥とするはやり唄の起源とその伝播にかんする研究—洒落本と随筆の記述分析を通して—	170,000
14	人文・社会	長澤 文彩	東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻音楽文化学研究領域音楽学	博士後期課程2年	中国古代編鐘の音響構造に関する研究	900,000
15	人文・社会	伊 蒙楽	一橋大学大学院言語社会研究科	博士後期課程5年	戦時期台湾知識人の中国叙述:汪精衛政権と満州国政権を中心に	1,150,000
16	人文・社会	石井 治一	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース	修士課程2年	日本における日越貿易品の流通と文化的影響—日本出土ベトナム無釉陶器を中心に—	510,000
17	人文・社会	大熊 久貴	明治大学大学院文学研究科史学専攻考古学専修	博士後期課程2年	櫛と髪型から見る古代日本の律令体制形成過程の実態	350,000
18	人文・社会	福田 隆巳	港区政策創造研究所	研究員	所得階層の移動可能性、外国人についての認知と政策選好の日西比較—オンラインサーベイ実験による検証	850,000
19	人文・社会	辻井 敦大	立命館大学衣笠総合研究機構	専門研究員	無縁死者祭祀の歴史社会学—合葬墓に対する公衆衛生と福祉の論理のせめぎ合いに注目して	450,000
20	人文・社会	趙 勝新	京都大学大学院経済学研究科	博士後期課程2年	現代海運業における国際分業と産業内分業の歴史的ダイナミズム 1970年代以降の世界海運業と日本海運	1,300,000
21	人文・社会	山岸 哲也	東京都立大学大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学分野	博士後期課程3年	共存を促す内在的メカニズム—インド・シッキム州における混濁的な宗教実践に関する社会人類学的研究	900,000
22	人文・社会	劉 書鈺	関西大学大学院東アジア文化研究科文化交渉学専攻	博士後期課程2年	近世琉球における久米村士族の儒教儀礼について—久米村の「家礼」「規模帳」を中心に	970,000
23	人文・社会	呉 心怡	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース	博士後期課程5年	東国における古墳時代終末期方墳の展開に関する考古学的研究:印旛沼周辺の方墳の測量・GPR調査から	600,000
24	人文・社会	藏田 典子	山口県立大学国際文化学部	講師	都市ごみから海ごみへの連環と住民意識:瀬戸内地域における環境意識調査とごみ発生動態の関係性解明	1,120,000

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
25	人文・社会	波田野 悠夏	東北大学学際科学フロンティア研究所新領域創成研究部人間社会研究領域	助教	分野横断型の物質文化解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明	1,050,000
26	人文・社会	千歩 弥生	中央大学大学院文学研究科社会学専攻	博士後期課程 3年	ハンセン病療養所退所者のライフストーリー研究ー各地域における多様な社会関係に着目して	1,050,000
27	人文・社会	楊 慧京	京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻	博士後期課程 3年	漢字文化圏における字体の位相的研究ー日本と朝鮮半島の漢字教科書から	834,932
28	人文・社会	朴 美子	神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学	博士後期課程 3年	紛争処理をめぐる伝承ー中国広西チワン族自治区大瑶山やオ族における慣習法に関する法民俗的研究	850,000
29	人文・社会	李 優大	東海大学国際学部国際学科	特任講師	戦間期ソ連外交の帝政ロシア外交との歴史的連続性ーソ連・イラン関係を事例としてー	583,393
30	人文・社会	藤田 風花	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	ヴェネツィア領キプロスのギリシア系貴族家門ネットワークー人文主義との関わりをとおしてー	330,000
31	人文・社会	Utami Ami Sukma	愛媛大学連合農学研究科生物環境学専攻	ポストドクトラル研究員	インドネシア西スマトラにおける伝統的知識に基づいた持続可能な共同灌漑管理	420,000
32	人文・社会	邵 金琪	関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻国語国文学専修	博士後期課程 4年	日本近代文学における<上海>の表象とその文化交流に関する実証的研究	650,000
33	数物・工学	玉熊 佑紀	長崎大学放射線総合センター	助教	ローカルな気象場を紐解くための短寿命鉛放射性同位体の連続測定手法の開発	920,000
34	数物・工学	手塚 達也	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程 2年	頭頸部の挙動に関するシミュレーション	250,000
35	数物・工学	朱 妍卉	北海道大学 創成研究機構・北方生物圏フィールド科学センター	特任助教	普通魚群探知機の定量化ー海底面の音響反射強度を用いた普通魚群探知機の較正方法の確立ー	1,070,000
36	数物・工学	日野 眞生	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	博士後期課程 3年	高効率 2 接合太陽電池の作製に向けた量子井戸太陽電池の開発と実証	900,000
37	数物・工学	小林 聖人	大阪大学サイバーメディアセンター	助教	水中における触覚・視覚情報に基づく遠隔操作型知能ロボットアームシステムの研究開発	1,240,000
38	数物・工学	湯本 純	秋田大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程 3年	離散化された球面上における格子 fermion の研究	650,000
39	数物・工学	原 貴之	長野工業高等専門学校工学科情報エレクトロニクス系	助教	インコヒーレントデジタルホログラフィのためのリアルタイム 3 次元像再生計算回路の開発	960,000
40	数物・工学	君塚 政文	東京都産業技術高等専門学校ものづくり工学科機械システム工学コース	助教	小型波浪観測ブイにおける評価方法の開発と最適筐体形状の解明	1,490,000
41	数物・工学	鈴木 敦詞	東北大学都市・建築学専攻	助教	大地震時の安全・『安心』を目指した使用継続性を保証する鋼構造制振設計確立への挑戦	900,000
42	数物・工学	SHAO XINLEI	東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻	博士後期課程 1年	強い人為影響下にあるサンゴ礁の保全と持続可能な観光管理手法の提案ータイ国バンカオ湾を例としてー	1,200,000
43	数物・工学	竹本 真	神戸大学大学院工学研究科建築学専攻	博士後期課程 2年	20 世紀初頭のドイツにおける生活改善運動に関する研究ーポール・シュルツェ＝ナウムブルクに着目してー	780,000
44	数物・工学	寺田 雄亮	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程 2年	太平洋の海洋中層における赤道に沿った層状循環の形成機構の解明	1,050,000
45	数物・工学	濃野 歩	東京大学大学院工学系研究科	博士課程 2年	宇宙機用電気推進機の中和過程におけるプラズマ物理の解明	900,000
46	数物・工学	澤原 馨登	筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学研究群化学学位プログラム	博士課程 2年	脱炭素社会に向けた“連続した高圧水素供給”のためのギ酸脱水素化用固定化錯体触媒の開発	832,647
47	数物・工学	石井 大地	東京都立大学大学院システムデザイン研究科機械システム工学域	博士後期課程 2年	靱帯付着部荷重伝達メカニズムの解明に向けた構造-力学機能関係の検討	117,007
48	数物・工学	間仁田 侑典	京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻	博士後期課程 3年	軽質量スピン 2 暗黒物質の生成機構の解明および重力波望遠鏡を用いた検証	455,732

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
49	数物・工学	彭 彭	横浜国立大学大学院都市イノベーション学府	博士後期課程 1年	温暖地域における 1920～30 年代の洋風住宅の温熱環境改善手法に関する研究	730,000
50	数物・工学	董 書闖	東京大学生産技術研究所	特任研究員	定置網漁における可撓性浮沈システムの導入による魚群の行動制御に関する研究	1,040,000
51	数物・工学	馬 駿	海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所環境・動力系環境影響評価研究グループ	主任研究員	ベンチュリ管式微細気泡生成による革新的エマルション油水分離の研究	1,061,214
52	数物・工学	宮本 薫	北里大学大学院理学研究科分子科学専攻量子物理学講座	博士後期課程 2年	曲面の幾何学を用いた可解な渦糸方程式の厳密解の構成	840,000
53	数物・工学	Billah A H M Areef	山形大学大学院電子情報工学専攻	博士後期課程 2年	強誘電性のナノ光触媒を用いた水素製造システムの開発及び機構解明	930,000
54	数物・工学	宇治 駿	千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻	博士後期課程 1年	単一電析金属ナノ粒子精密形態制御法による省電力金属析出型マルチカラー表示素子の高機能化	670,000
55	数物・工学	隈下 敦貴	兵庫県立大学大学院理学研究科物質科学専攻	博士後期課程 1年	放射光表面 X線による二次元量子系ヘリウムの吸着第一層の構造決定と新奇量子相の解明に向けた装置開発	640,000
56	数物・工学	吉村 洸貴	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋システム工学専攻	博士前期課程 1年	非線形振動子を用いた振動翼推進機構の開発と沿岸探査用自律航行ロボットへの応用	1,050,000
57	数物・工学	廣川 雄大	北見工業大学大学院工学専攻	博士前期課程 2年	燃料油の硫黄分がディーゼル排気微粒子の粒子形態に及ぼす影響の解明	1,100,000
58	数物・工学	Acharya Ashis	島根大学大学院総合理工学部地球科学科	博士課程 1年	分散型光ファイバーセンシングを用いた深部基盤岩内の地質水文モニタリング	800,000
59	数物・工学	渡邊 良輔	東京農工大学大学院工学府生体医用システム工学専攻	博士後期課程	誘電体バリア放電による糖アルコールのプラズマ結晶生成メカニズムの解明	900,000
60	数物・工学	竹澤 くるみ	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科先端融合科学専攻グローバル地域デザインプログラム	博士後期課程 1年	医療・介護サービスの連携提供を実現する包括的都市計画手法に関する探索的研究	1,123,736
61	数物・工学	佐藤 壮紀	鹿児島大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程 2年	Ag-In-Yb 準結晶 5 回軸表面におけるペンタセンの安定吸着サイトに関する第一原理計算	725,060
62	数物・工学	高野 哲秀	北海道大学大学院工学院エネルギー環境システム専攻	博士後期課程 1年	複雑流体の乱流変調を明らかにする渦粘度プロファイラの開発（乱流中での運動量輸送の時空間での定量化）	970,000
63	数物・工学	三反畑 修	東京大学地震研究所	助教	地震波・津波の観測および火山性地震モデルに基づく活動的海底火山の遠隔的モニタリング	1,500,000
64	数物・工学	Huiling Mao	国立研究開発法人物質・材料研究機構	研修生	カイラル反強磁性体を用いたテラヘルツスピントロニクス	1,500,000
65	数物・工学	山内 悠飛	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	博士前期課程 2年	アンジュレータ型潮流発電機の開発	1,280,000
66	数物・工学	浮田 駿	電気通信大学大学院情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻	博士後期課程 2年	大気圧有機金属気相成長した酸化ガリウム透明導電膜を用いた紫外 LED 光出力向上に関する研究	900,000
67	化学	塚田 彩友	東邦大学大学院理学研究科環境科学専攻	博士前期課程 2年	官能基修飾型多孔性錯体結晶を用いた水環境汚染物質に対する高度な吸着分離技術の開発	1,050,000
68	化学	池下 雅広	日本大学生産工学部応用分子化学科	助教	円偏光燐光を示す常温液体キラル白金錯体の創成	970,000
69	化学	栗原 崇人	千葉大学国際高等研究基幹	特任助教	可視光アンテナリガンドを用いたサマリウム触媒光還元反応の開発	970,000
70	化学	小西 成樹	北里大学薬学部生薬学教室	助教	希少糖類 D-アロースを有する生薬「厚朴」由来マグロシド類の全合成研究	970,000
71	化学	山田 孝博	昭和薬科大学医薬分子化学研究室	特任助教	タンパク質の機能制御を指向したチロシン残基選択的アミノ化法の開発	970,000
72	化学	信田 尚毅	横浜国立大学大学院工学研究院	准教授	グリーンで安全な酸化反応を実現する電極メディアエータの開発	970,000
73	化学	松本 祥汰	昭和薬科大学大学院薬学研究科	博士課程 3年	ブレンステッド酸塩基反応をもとにしたキレートフリー三価金属イオン検出法の開発	963,045

別表(1) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表(学術研究)

(単位:円)

No.	対象領域	助成者名	所属機関:名称	所属機関:職名	研究課題	確定助成金額
74	化学	永井 昌樹	立命館大学生命科学部応用化学科	助教	分子集合によって光異性化が促進される「凝集誘起光異性化」という新概念の創出	900,000
75	化学	児玉 康輝	北見工業大学大学院工学研究科生産基盤工学専攻	博士後期課程3年	海水中微量元素の測定に特化した迅速・安全・簡便な前濃縮法の開発	1,080,000
76	化学	田中 駿乃介	千葉大学大学院融合理工学府	博士後期課程2年	水素発生反応を高活性化する有機物の反応中界面構造と活性化因子解明	960,000
77	化学	牧野 哲直	電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程2年	新規の六角形型 DNA 集合体の形成メカニズムの解明と電気伝導性の調査	770,000
78	化学	高須 蒼生	岐阜薬科大学薬学部	助教	ESI-MS でのマイクロドロップレット反応によるポストカラム誘導体化法の基礎検討	900,000
79	化学	富田 直仁	岐阜薬科大学大学院薬学専攻	博士課程1年	カーボンニュートラルを実現する二酸化炭素の資源化	1,050,000
80	化学	下山 大輔	東京都立大学大学院理学研究科化学専攻	助教	高分子末端官能基化を基盤とした次世代白色発光材料の開発	1,070,000
81	化学	山科 雅裕	東京工業大学理学院化学系	助教	ウイルスの構築原理に基づく光機能性環状集合体の開発	970,000
82	化学	伊藤 広真	東京工業大学大学院物質理工学院	修士課程2年	海に眠るウラン資源開拓のためのまったく新しいウラン吸着材の開発	1,072,048
83	化学	Putri Ghina Kifayah	熊本大学大学院自然科学教育部材料・応用化学専攻	修士課程2年	室温条件下での水素分離を目的とした高選択性炭素ベース非対称膜	940,000
84	化学	菅野 正幸	徳島大学大学院薬学研究科創薬科学専攻	博士後期課程2年	新規二官能性触媒による分子内反応化を鍵とするアリールボロン酸を求核種とする不斉カルボハロゲン化の開発	970,000
85	化学	盛田 大輝	東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科	助教	可視光駆動型遷移金属触媒が拓く BN 芳香族化合物の直接的不斉官能基化反応	900,000
86	化学	楠木 怜奈	東京農業大学大学院生命科学研究所分子生命化学専攻	博士後期課程1年	有機合成化学的手法を用いた C-グリコシドエラジタンニンの生合成経路の解明	900,000
87	化学	塩原 康希	大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻	博士前期課程2年	キララな一級アミンを基盤とした網羅的な共結晶化とキララ集積構造の発生	1,500,000
88	化学	黒川 宗希	京都大学大学院薬学研究科	博士課程1年	エッジ混在型アズレン含有グラフェンナノリボンの合成法確立とその物性評価	970,000
89	化学	可児 龍之介	岐阜大学工学研究科	博士課程3年	芳香環フッ素化シアニン色素を用いた CO2 応答性シリコンエラストマーの開発	900,000
90	化学	馬場 龍之介	九州工業大学大学院情報工学府情報工学専攻	博士後期課程3年	円偏光マイクロ波照射下における不斉反応促進効果に関する速度論的分子機構の解明	1,050,000
91	化学	中川原 亜依	群馬大学大学院理工学府物質・生命理工学教育プログラム	博士前期課程2年	1本の疎水鎖末端をフッ素化した新規部分フッ素化リン脂質シリーズの開発	770,000
92	化学	BAI PENGCHU	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻	博士後期課程1年	越境輸送に伴うバイオマス燃焼生成大気汚染物質の変質機構に関する研究	1,050,000
93	化学	杉村 晴菜	大阪大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程1年	反芳香族アプローチによる有機近赤外発光色素の創生	610,000
94	化学	海東 和麻	名古屋大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻	特任助教	適用範囲を考慮した有機化合物の中枢神経移行性予測モデル構築	1,068,264
95	化学	松瀬 瑞季	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻	博士前期課程1年	電解発生塩基を活用する環骨格形成反応の開発	1,050,000
96	化学	河口 姫子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻	博士前期課程2年	ジベンゾヘテロピン構造を鍵とした Donor- π -Acceptor 型熱活性化遅延蛍光分子の開発	510,000
97	化学	深谷 陽子	名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻生命・応用化学系プログラム	博士前期課程2年	生命科学を加速する高汎用的細胞内タンパク質阻害技術の開発	980,000
98	化学	鈴木 龍樹	仙台高等専門学校	助教	天然の食品色素として利用する青色色材の開発	1,070,000
99	化学	西村 啓矢	鹿児島大学大学院農林水産学研究科食品創成科学専攻	修士課程2年	ポリフェノール構造特性を利用した金属キレート化による機能性の評価	900,000
100	化学	徳田 駿	京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻	修士課程2年	200種類以上の分子が集積したハイエントロピー分子結晶の創成	630,000
101	生物	橋本 恵	お茶の水女子大学 ヒューマンライフサイエンス研究所	特任講師	多様な認知症マウス系統オミクスデータから探る老化認知障害誘発機構	930,000

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
102	生物	村上 千明	千葉大学国際高等研究基幹	特任助教	新タイプの哺乳類ホスホリパーゼC酵素群の発見と機能解析—ジアシルグリセロール代謝の新機軸—	1,040,000
103	生物	KIM Eunchul	自然科学研究機構基礎生物学研究所環境光生物学研究部門	助教	革新的な分析法の構築を通じた植物における光防御機構「スピルオーバー」の解明	1,120,000
104	生物	村岡 勇樹	東北大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程3年	アメリカネムノキの葉の運動を駆動する温度センサーイオンチャネル SPORK2 の温度感知機構の解明	1,020,000
105	生物	堀 翔悟	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部メディカルバイオサイエンス研究科	助手	侵害センサーTRPV1 の高温感受性を決定する四肢動物共通のメカニズムの解明	940,000
106	生物	小川 伸一郎	京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻 動物遺伝育種学分野	助教	ゲノム情報を活用した黒毛和種における新規形質の効率的な改良手法の開発	270,000
107	生物	Yoon Jeongwoong	東北大学大学院農学研究科	修士課程2年	逆遺伝学的研究による海洋二枚貝伝染性がん（BTN）起源のがん化メカニズムの解明	900,000
108	生物	向井 康治朗	東北大学大学院生命科学研究科	助教	マイクロオートファジーによる自然免疫シグナル STING 経路の活性制御機構の解明	1,120,000
109	生物	大波 千恵子	京都大学大学院人間・環境学研究科関連環境学専攻	修士課程2年	サンゴ骨格内に共生する藻類はどのように光合成を行っているのか—褐虫藻以外のサンゴ共生藻類の光捕集戦略	850,000
110	生物	加藤 遼	徳島大学ポスト LED フォトニクス研究所	特任助教	細胞内分子ダイナミクスを可視化するラベルフリー超解像赤外線顕微鏡の開発	820,000
111	生物	石川 舞結	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程2年	サンゴ幼生の着生行動を誘発する海底岩盤上のバクテリアの特定	450,000
112	生物	石川 瑞穂	九州大学生体防御医学研究所皮膚再生老化学分野	助教	「幹細胞ニッチ」としての血管：血管を介した表皮幹細胞制御メカニズムの解明	1,500,000
113	生物	高橋 大輔	埼玉大学大学院理工学研究科	助教	Selaginella 属植物の高い乾燥耐性に寄与する細胞壁コンポーネントの解明	1,120,000
114	生物	日向 大智	関西学院大学大学院理工学研究科生命医化学専攻	博士後期課程2年	RFFL を標的とした囊胞性線維症に対する核酸医薬品の開発	940,000
115	生物	陸 鵬	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻	助教	海洋ビブリオ属細菌の鉄捕捉タンパク質の構造機能解析及び鉄制限を用いる抗菌剤探索	900,000
116	生物	市川 晴雪	北見工業大学大学院工学専攻	博士前期課程2年	シロイヌナズナ根を適した光環境で生育する装置(Shaded-Root System)の製作と研究利用	1,020,000
117	生物	加藤 壮一郎	熊本大学 発生医学研究所	助教	初期胚の伸長システムの幾何学的制約に対する頑強性と可塑性	1,110,000
118	生物	唐 暢	東北大学大学院薬学研究科創薬科学科生命薬科学	博士後期課程3年	自然免疫の記憶におけるアデノシン経路の役割の解明	750,000
119	生物	中島 菜々子	佐賀大学大学院生物資源化学専攻生命機能科学コース	修士課程2年	海洋最重要基礎生産者である珪藻に感染するウイルスを対象とした改変ウイルス作成技術の開発	880,000
120	生物	高山 なつ美	広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士前期課程1年	オグロトラギスにおける巣の機能解明とその適応的意義について	140,000
121	生物	副島 晴希	北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻	修士課程2年	寄生虫 Heterobothrium okamotoi の血液凝固反応抑制機構の解明	960,000
122	生物	山本 千愛	筑波大学 下田臨海実験センター 稲葉研究室	助教	植物の精子鞭毛運動におけるシグナル伝達機構の解明	1,030,000
123	生物	北脇 耕平	宮崎大学大学院農学研究科農学専攻植物生産環境科学コース	修士課程2年	ナフトキノン類による植物の低温シグナル伝達制御機構の解明	1,030,000
124	生物	菊地 杏美香	横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻	博士前期課程2年	DNA 維持メチル化酵素 DNMT1 の活性化機構の構造生物学的解明	960,000
125	生物	浜中 祐弥	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻	博士後期課程1年	麹菌の同じ株どうしのコロニー間における増殖抑制現象を制御する因子の探索	860,000
126	生物	福家 真帆	東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程2年	内温性形成がクロマグロ若魚における代謝速度の水温依存性に与える影響の評価	780,000
127	生物	我妻 竜太	早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	博士後期課程2年	ウイルス1粒子ゲノム情報の新規解析手法の開発とそれを用いた海洋ウイルス間における遺伝子フローの解明	1,466,844

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
128	生物	田原 将初	横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境専攻	博士前期課程 2年	マリンスノーの形成と崩壊に關与する海洋菌類の多様性解明	870,000
129	生物	宇田川 澄生	お茶の水女子大学湾岸生物教育研究所	特任助教	棘皮動物の幼生において五放射相称パターンを決定する遺伝子の同定とその保存性の検証	1,490,000
130	生物	正木 亜嘉理	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程 2年	フタツノクンショウモにおける群体の細胞数変化の温度依存性メカニズムの解明	710,000
131	生物	加登 文乃	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程 2年	無性生殖個体群は独立種と認められるか？-紅藻イカノアシに近縁な無性生殖個体群の場合-	820,000
132	生物	清水 聡史	静岡県立大学薬学部	助教	心臓におけるトランスポーターの性腺・性染色体の影響を区別した網羅的性差解析	900,000
133	生物	松本 直也	麻布大学獣医学部獣医学科臨床診断学研究室	研究生	無麻酔 CT 撮影によるペンギンのアスペルギルス症の早期診断に関する研究	220,000
134	生物	隅谷 和樹	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科環境システム専攻バイオシステムコース	博士後期課程 3年	多糖核酸複合体による薬剤送達を利用した CTL 誘導・腫瘍内免疫抑制解除システムの創出	900,000
135	生物	山口 翔	北海道大学大学院医学研究院細胞薬理学教室	博士研究員	摘出全脳標本を用いた概日リズム振動の観測手法の確立	970,000
136	生物	金 成学	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生・口腔組織学分野	博士課程 4年	多様な細胞が協調して達成される頭蓋形成のメカニズムの解明	900,000
137	生物	安田 楓	埼玉大学大学院理工学研究科生命科学専攻生体制御プログラム	修士課程 2年	脊椎動物胚での脊髄伸長を担う胚後端・尾芽領域での神経発生制御機構の解明	730,000
138	生物	朝鍋 遙	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	修士課程 1年	アメンボ類の塩水適応形質の特定および進化史の解明	1,110,000
139	生物	中川 沙弥	東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻	博士後期課程 2年	精巣特異的なプロモドメインの役割と遺伝子発現制御機構の解明	930,000
140	生物	山下 龍之丞	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究院海洋資源環境学専攻	博士前期課程 1年	磯浜海岸の間隙生物群集の構造を規定する環境要因の特定	990,000
141	生物	水上 知佳	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	博士後期課程 1年	細根からの多様なホスファターゼ分泌による樹木のリン獲得適応機構の解明	550,000
142	生物	青山 雄貴	滋賀県立大学大学院環境科学研究科環境動態学専攻	修士課程 2年	地ビール副産物を活用した機能性卵の生産技術開発	710,000
143	生物	SINGH PRERNA	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻	博士課程 4年	陸上植物における細胞極性の新たなメカニズム	970,000
144	生物	中村 凜子	総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻	博士後期課程 2年	ヒストンメチル化酵素 Clr4 の活性制御機構の解明	570,000
145	生物	河野 恵美	東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士後期課程 1年	新規 Nitrospirota 門細菌の多系統比較解析による好気環境適応進化の解明	897,971
146	生物	大内 彩子	理化学研究所脳神経科学研究センター	特別研究員	海馬一嗅内皮質回路において未来の経路情報を表現する神経メカニズムの解明	1,120,000
147	生物	RZEPECKA NATALIA JULIA	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士後期課程 3年	ゴルジ体/TGN に局在するシロイヌナズナの新規タンパク質ファミリーの機能の解明	750,000
148	生物	永田 健斗	量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所放射線影響研究部	研究員	乳腺上皮細胞の異常分化を通じた乳腺発がんのメカニズム解明	1,040,000
149	生物	堀 望美	大阪大学大学院生命機能研究科生命機能専攻	一貫制博士課程 3年	皮膚細菌による細胞老化を介した創傷治癒遅延機構の解明	970,000
150	生物	川島 董	琉球大学理学部海洋自然科学科生物系	博士研究員	錯視から解き明かすタコの脳内情報処理機構	1,000,000
151	生物	Dirgantara Dio	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程 3年	プラスチック-微生物によるサンゴへの影響	789,640
152	生物	落合 佳樹	沖縄科学技術大学院大学科学技術研究科科学技術専攻	一貫制博士課程 4年	RNA 標識酵素の創製を目指した RNA メチル化酵素の新規進化分子工学的法の開発	820,000

別表(1) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表(学術研究)

(単位:円)

No.	対象領域	助成者名	所属機関:名称	所属機関:職名	研究課題	確定助成金額
153	生物	館田 宇宙	高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻	修士課程1年	植物病原細菌-青枯病菌の病原性制御を司るクオラムセンシングの二価鉄依存的な制御メカニズムの解明	820,000
154	生物	栗原 寛明	東北大学大学院農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程2年	集団ゲノミクスによる過去の気候変動と人間活動がハタハタ資源に与えた影響の解明と将来予測	1,037,926
155	生物	宮木 直	北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	修士課程2年	マダイ Pagrus major のメラノマクロファージセンターにおけるケモカイン CCL20 の機能	890,000
156	生物	李 月軒	高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻	修士課程1年	海産無脊椎動物に存在するD-アラニン合成酵素の探索	840,000
157	生物	吉田 真菜	広島大学大学院統合生命科学研究所統合生命科学専攻	博士後期課程1年	エピジェネティック制御を介した器官再生プログラム活性化機構の解明	730,000
158	生物	原 里英	京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	博士後期課程1年	メダカにおける腹椎数決定遺伝子の同定	810,000
159	生物	金 翔宇	帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻	博士後期課程3年	恒温動物の白色脂肪細胞における潜在的な代謝変化と適応性-マンガリツアブタの季節誘導性代謝機能-	1,120,000
160	生物	青田 幸大	東京農業大学大学院農学研究科生物資源開発学専攻	修士課程2年	鯨類の睡眠戦略に熱損失が及ぼす影響	1,020,000
161	生物	水越 かのん	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群農学学位プログラム	博士後期課程1年	海鳥の営巣が海洋島生物群集に与える影響-植物と節足動物を中心に-	440,035
162	生物	前田 明里	名古屋大学大学院生命農学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	概日時計が温度に抵抗性を持つしくみ	970,000
163	生物	手良村 知功	産業技術総合研究所地質情報研究部門	特別研究員	DNA バーコーディングと環境DNA解析による深海性魚類の仔稚魚が沿岸に大量接岸する要因の究明	970,000
164	生物	池田 秀斗	早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	修士課程2年	シングルセル観察で紐解くアンモニア酸化細菌の難培養性の要因~培養可能条件下では全細胞が増殖するのか~	115,863
165	生物	中川 こずえ	京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	博士前期課程2年	ブランド水産物の成長率と生残率を最大化する養殖適地の迅速推定手法の開発	1,300,000
166	生物	亀井 遥香	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻大気海洋研究所	修士課程2年	北西太平洋の深海に生息するアオビクニンおよびサケビクニンの地理的分布と交雑に関する研究	400,000
167	生物	安田 直也	東京農業大学大学院国際食料農業科学研究科国際食農科学専攻	博士後期課程1年	培養細胞を用いたビタミンK2によるアポトーシス誘導の分子機構の解析	700,000
168	生物	大竹 郁花	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	博士前期課程2年	若いオスに注目したマッコウクジラの潜水行動調査:潜水データと鳴音データの統合解析による行動生態の解明	1,500,000
169	生物	古谷 優治	岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科バイオ・創薬部門	博士前期課程1年	熱ストレス依存的に形成される核内ストレス顆粒形成のカルシウムイオンシグナル伝達機構解明	1,030,000
170	生物	伊藤 武留	筑波大学大学院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程2年	沿岸域における海藻の溶存態有機物生産の群集レベルでの定量	820,000
171	生物	川野 真依	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士後期課程1年	胎生エイ類はなぜ胚休眠を行うのか:新規モデル生物ウチワザメの確立と胚休眠メカニズムの研究	1,200,000
172	生物	劉 雨昕	東北大学大学院農学研究科	博士前期課程2年	沿岸域の藻場における微小巻貝類の生態的特性の解明	820,000
173	生物	廣瀬 匠悟	名城大学大学院農学研究科農学専攻	博士後期課程2年	接ぎ木法を用いたバジルの香り成分オイゲノールの長距離輸送様式の解明とその利用	970,000
174	生物	関口 学	岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻	博士課程2年	脳をもたないヒドラの睡眠中枢の探索	970,000
175	生物	Meng Lingjie	京都大学化学研究所	特定研究員	新門を形成する未培養海洋ウイルス-ミラスウイルス-の宿主同定と単離	1,300,000
176	生物	中井 慎也	大阪公立大学大学院医学研究科基礎医科学専攻	博士課程2年	空間探索のための海馬体→脳梁膨大後部皮質における情報伝達機構の解明	820,000

別表（1）2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
177	生物	八尋 逸清	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻海洋生物学研究室	博士後期課程 3年	SDF-1/CXCR4 シグナルを用いた、簡便かつ高汎用的な不妊化技術の開発	1,030,000
178	生物	吉田 陽香	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物学専攻	修士課程 1年	日本近海に生息するクマノミをモデルとした熱帯性海水魚の北方適応機構	1,270,000
179	生物	山口 永晏	高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻生物学コース	修士課程 2年	高知海岸における砂浜環境の現況とアカウミガメの産卵可能範囲の把握	790,000
180	生物	草場 友貴	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	博士前期課程 1年	生物装着型ロガーを用いたペンギンの獲物追跡戦術の解明	610,000
181	生物	大枝 亮	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士後期課程 1年	日本沿岸に漂着した鯨類の消化管内から検出される海洋プラスチックの影響評価	970,000
182	生物	飛田 彩乃	埼玉大学大学院理工学研究科生命科学専攻生体制御学 PG	博士前期課程 1年	小脳・延髄領域の部位化と神経発生を支配する gbx 遺伝子の発現制御に関するゲノム編集技術による解析	1,040,000
183	生物	西部 太喜	富山大学大学院理工学研究科理工学専攻	修士課程 2年	脊椎動物に共通したストレス応答の中核メカニズムの解明	840,000
184	生物	劉 宇琪	東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻	博士後期課程 1年	パーキンソン病原虫が示す環境応答機構の細胞生物学的研究	990,000
185	生物	大町 紘平	理化学研究所生命機能科学研究センター	研究員	毛包幹細胞の運命制御と組織恒常性における「幹細胞-基底膜」相互作用の役割の解明	750,000
186	生物	大滝 志郎	東京大学大学院農学生命科学研究科	修士課程 2年	森林由来有機成分が水圏生物に及ぼす影響に関する研究	590,000
187	生物	倉賀野 真央	福井県立大学大学院生物資源学研究科海洋生物資源学専攻	修士課程 2年	海底湧水が宮津湾内の二枚貝養殖場の一次生産に及ぼす影響の評価	550,000
188	生物	河合 萌	東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻	博士後期課程 2年	海草・海藻類の分布量に応じたアオウミガメの採餌生態の解明	1,300,000
189	生物	張磨 琉亜	東北大学大学院農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程 2年	精子細胞特有の形態変化を制御するマンシエット（微小管集合体）分解機構の解明	600,000
190	生物	小南 彩夏	北海道大学大学院水産科学院海洋応用生命科学専攻	博士後期課程 1年	水産重要種サビノリにおける生産量拡大と地球環境改善に向けたエビジェネティックな制御機構の解明	1,120,000
191	生物	高野 季樹	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程 2年	DNA メタバーコーディングを用いた仔魚の食性分析と沿岸域における微細藻類の一次生産者としての役割	890,000
192	生物	山根 慶大	広島大学大学院医系科学研究科	博士課程 2年	Epstein-Barr ウイルス分子 LMP1 の固形がん免疫監視誘導作用の解明	900,000
193	生物	濱田 翔太	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科水産学専攻	博士前期課程 1年	海洋における天然交雑の発生機構：ヒラマサとブリの交雑をモデルとして	708,368
194	生物	中田 里奈穂	同志社大学大学院脳科学研究科発達加齢脳専攻	博士後期課程 2年	タウタンパク質の臨界期からなる軸索局在メカニズムの解明	670,000
195	生物	廣内 大成	京都大学医学研究科	特定研究員	マイクロ流体デバイスを用いた LTP のシナプス特異性維持の再構成	1,120,000
196	生物	小澤 光莉	東洋大学大学院生命科学研究科生命科学専攻	博士後期課程 2年	繁殖中および繁殖終了直後の海鳥における生態学的・生物学的な重要海域の特定	1,120,000
197	生物	加嶋 広武	島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻生命科学コース	修士課程 2年	ヌタウナギ嗅覚受容体の発現パターンおよび機能解析	417,641
198	生物	榮 航太郎	三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士前期課程 2年	光合成と菌寄生の両方で炭素を獲得する混合栄養植物は根渗出物を土壌に放出して有益細菌を誘引するのか？	960,000
199	生物	柴田 夏実	北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻資源生物学講座	修士課程 1年	定置網での混獲防止を目的としたネズミルカの間隙認知に関する再検討	960,000
200	生物	稲葉 勇人	岡山理科大学大学院総合情報研究科数理・環境システム専攻	博士後期課程 2年	ティラノサウルス類の残存タンパク質の多角的解析から確立する、信頼性が高い化石タンパク質の検出方法	740,000
201	生物	李 何萍	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士後期課程 2年	北海道周辺海域の環境変動に対する回遊性鰭脚類の生息地利用特徴及び差異	1,180,000

別表(1) 2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表(学術研究)

(単位:円)

No.	対象領域	助成者名	所属機関:名称	所属機関:職名	研究課題	確定助成金額
202	生物	村上 吉朗	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	酵母における温度依存的な転写開始点変化に必要な新規因子の同定	840,000
203	生物	出羽 優凧	鹿児島大学大学院農林水産学研究科	修士課程2年	インド・西太平洋の温帯から熱帯域に生息するヘビギンボ属魚類の多様性評価	970,000
204	生物	内田 吉美	昭和薬科大学	特任助教	Smad1/5シグナルが担う腸管組織の分化および恒常性維持機構の解明	1,040,000
205	生物	北村 穂乃香	長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科	短期研究従事者	2細胞期様細胞に含まれる真の全能性を有する重集団の同定	900,000
206	生物	松本 朋子	大阪公立大学大学院農学研究科応用生物科学	博士後期課程1年	植物の細胞核におけるアクチン脱重合因子の機能解析	880,000
207	生物	勝木 希	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生命農学学位プログラム	博士後期課程3年	最も古くて新しいフラビン依存性芳香族水酸化酵素の触媒機構の解明	270,000
208	生物	田原 京佳	山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス系専攻	博士後期課程1年	青色光にตอบสนองした気孔開口におけるBLUS1結合因子の機能解析	900,000
209	生物	江口 博晶	岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻	博士後期課程3年	がん悪性化の予防効果をもつプラズマ製品の開発	900,000
210	生物	豊竹 洋佑	立命館大学生命科学部生物工学科	助教	ホスファチジルコリンによる生体膜機能発現メカニズムの解明	1,120,000
211	生物	寺山 佳奈	高知大学	短期研究員	測位頻度と調査期間が野生哺乳類の行動圏に与える影響	250,000
212	生物	Azerigyik Faustus Akankperiwen	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	博士課程4年	日本で散発的流行を起こすゲタウイルスの媒介蚊種の特異とその伝播特性を支える分子基盤の解明	930,000
213	生物	中村 亮介	京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	二次遷移にともなう森林ケイ素循環の変化:冷温帯から亜熱帯にかけての包括的解明	960,000
214	生物	松浦 匠	信州大学大学院総合理工学研究科	修士課程2年	クチナガオオアブラムシにおける季節的な利用植物変化の獲得過程の検証	1,010,000
215	生物	勝浦 柊	名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻	博士後期課程2年	カンボジア熱帯季節林における樹木の吸水深度特性の解明-気候変動に対する樹木の応答予測を目指して-	1,120,000
216	生物	中嶋 梨花	筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物資源学科学学位プログラム	博士前期課程1年	細胞質雄性不稔性ジャガイモ品種の稔性回復	950,000
217	生物	池田 颯希	京都大学大学院理学研究科	修士課程1年	コケ食ダニの多様性と進化:コケ食の起源と寄主利用パターンの究明	620,000
218	生物	長澤 竜樹	東京工業大学生命理工学院生命理工学系	助教	複雑な嗅覚処理に寄与する保存的な遺伝子の転写制御メカニズムの解明	1,040,000
219	生物	廣野 由奈	東邦大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士前期課程2年	レンゲツツジの毒性成分は花蜜微生物のフィルター機構として機能しているのか	680,000
220	生物	松代 雄太	筑波大学大学院生命地球科学研究学群環境科学学位プログラム	修士課程2年	鉾山集積場の植生遷移を促進するススキにおける内生菌が関与した耐性機構の解明	590,000
221	生物	橋爪 拓斗	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程2年	日本産ムネクボハネカクシ亜族(甲虫目:ハネカクシ科)の分類学的・系統学的研究	650,000
222	生物	阿部 純大	九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程2年	日本産Cryptoserphini族(ハチ目:シリボソクロバチ科)における分類学的再検討と分子系統推定	440,000
223	生物	近藤 湧生	大阪公立大学理学研究科生物学科	特任助教	メダカの学校はどのようにやってできる?ミナミメダカにおける「群れ」の形成過程の解明	810,000
224	生物	羽田野 凌矢	大阪公立大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士前期課程2年	カワゴケソウ科の根の機能分化に関する研究	100,000
225	生物	高崎 日向子	山形大学大学院農学研究科	修士課程2年	多雪地における在来および外来中型食肉目5種の種間関係とその季節変化の解明	781,036
226	生物	中村 直人	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	博士後期課程3年	植物病原性微生物の進化が駆動する外来植物の侵略に関する研究	1,100,000
227	生物	中村 駿志	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	特任研究員	一葉植物モノフィレアを対象とした実験系の確立~1枚の子葉が大きくなり続ける分子機構に迫る~	1,040,000

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
228	生物	小林 利紗	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術科先端科学技術 専攻	博士後期 課程 3年	アブラナ科植物の優劣性制御因子における保 存性と多様性の解明	189,053
229	生物	鎌田 周一	東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻	修士課程 2 年	ハチ目の行動進化と関連するキノコ体複雑化 の分子基盤を探索	720,000
230	生物	吉川 晟弘	鹿児島大学国際島嶼教育研究 センター奄美分室	特任研究 員	放射相称動物の「方向性を示す行動」に関わ る分子機構の解明 –イソギンチャクに「前」 はあるのか？–	1,110,000
231	生物	花輪 万智	放送大学大学院文化科学研究 科	博士後期 課程 2年	都市緑地において池の有無が昆虫食鳥類の生 態にどのようにかかわっているか	500,000
232	生物	朴 鎮亨	九州大学生物資源環境科学府 資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程 2 年	日本産ヒロゾゴガ上科 Tineoidea の分類と腸 内細菌叢解析を用いた食性多様化様式の解明	543,767
233	生物	吉田 理見	弘前大学大学院農学生命科学 研究科農学生命科学専攻生物 学コース	修士課程 2 年	春植物エゾエンゴサク（ケシ科）集団内に生 じる多様な葉の形態の進化生態学的背景につ いて	880,000
234	生物	青木 大地	筑波大学大学院理工情報生命 学術院生命地球科学研究群生 物学学位プログラム	博士前期 課程 2年	海産単細胞性藻類クロララクニオン藻のモデ ル生物化の試み	960,000
235	生物	Fosseppez Charles	北海道大学電子科学研究所	ポストド クトラル 研究員	複雑な空間を集団で探索する原生物の群れ 行動の研究	880,000
236	生物	高屋 浩介	京都大学大学院農学研究科	博士後期 課程 3年	深層学習で挑む新たな個体及び交雑種判別手 法：情報科学と野外調査でオオサンショウウ オの保全に貢献する	1,030,000
237	生物	藤田 健	新潟大学大学院自然科学研究 科環境科学専攻	博士前期 課程 2年	佐渡島におけるモリアオガエルのニッチ拡大 に基づく形質的な変化とその要因	750,000
238	生物	福島 真意	帯広畜産大学大学院畜産学研 究科畜産科学専攻	博士前期 課程 1年	フクロウ目は真の肉食といえるか？–共生細 菌から探る盲腸の機能解明–	670,000
239	生物	平野 日向	東京農工大学大学院連合農学 研究科生物生産科学専攻	博士後期 課程 1年	フェノール成分を指標とした日本産イワベン ケイ属における地理的変異および環境適応機 構の解明	600,000
240	生物	杉山 響己	名古屋大学大学院環境学研究 科地球環境科学専攻	博士前期 課程 2年	長寿命海鳥における加齢に伴う採餌戦略の変 化	885,238
241	生物	浅枝 優花	広島大学大学院統合生命科学 研究科統合生命科学専攻生命 医科学プログラム	修士課程 2 年	温泉への適応に関わる種をまたいだ遺伝的変 異の探索	960,000
242	生物	深草 彩子	琉球大学大学院理工学研究科 海洋自然科学専攻	博士前期 課程 2年	大東諸島における単為生殖種オガサワラヤマ リの遺伝的多様性の創出・維持機構の解明	1,100,000
243	生物	小原 晶奈	神奈川大学大学院理学研究科 理学専攻	修士課程 1 年	阿寒湖の結氷期間の短縮による低温・強光環 境はマリモを損傷するか	880,000
244	生物	佐々木 陽依	京都大学大学院理学研究科生 物科学専攻植物学系	修士課程 1 年	樹木における側脈タイプの進化動態とその駆 動要因の解明	1,040,000
245	生物	ORREGO MORALES MARLY	九州大学大学院農学部生物資 源環境学科	博士課程 3 年	タケ類の細根の分枝構造に対応した化学的、 形態的特性がリターの分解過程に及ぼす影響	470,000
246	生物	中西 博亮	横浜国立大学大学院環境情報 学府自然環境専攻	博士前期 課程 2年	雪氷藻類に寄生する新規ツボカビ3系統の生 活史戦略の解明	980,000
247	生物	福井 千海	千葉大学大学院融合理工学府 基幹工学専攻機械工学コース	博士後期 課程 1年	匂いブルームの時間・空間的に高分解能な構 造解析に基づいた飛翔昆虫の3次元匂い源探 索アルゴリズムの解明	980,000
248	生物	西間庭 恵子	筑波大学大学院（連携：国立 科学博物館）生命環境科学研 究科生物科学専攻	博士後期 課程 3年	ハクジラ類とカバ科の顔面神経と表情筋の肉 眼所見からせまるクジラ類の水生適応の検討	950,000
249	生物	中野 有紗	北海道大学北海道大学	特任助教	ハエマンサス属における正逆種間交配に由来 する胚乳組織を用いた三倍性種間雑種の作出	940,000
250	生物	HU RICHA	鳥取大学大学院連合農学研究 科国際乾燥地科学専攻	博士後期 課程 4年	モンゴルの乾燥地草原における降水パターン が草原生産性および飼料価値に与える影響	810,000
251	生物	小池 圭太郎	岐阜大学大学院連合農学研究 科	博士後期 課程 1年	超アルミニウム耐性植物の茶樹におけるリン 栄養の生体内リサイクルを生体膜脂質のリモ デリングから説明する	820,000

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
252	生物	原 直子	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科化学生物環境学専攻	博士前期課程 2年	濾過食者シマトビケラの生態機能を定量評価する：ダム下流域における浄化機能を最大化する川作りを目指して	740,000
253	生物	矢部 りさ	静岡大学大学院総合科学技術研究科理学専攻生物科学コース	修士課程 2年	ニホンアマガエルの凍結耐性の内分泌学的な調節機構の解明	750,000
254	生物	石井 和	千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース	博士前期課程 1年	高山生態系を駆動するアブラムシ集団の動態を解明する	890,000
255	生物	富永 悠太	長崎大学大学院水産環境科学総合研究科水産学専攻	博士前期課程 2年	塩分濃度変化に対するスズキの代謝率変化－スズキはなぜ河川に侵入するか？－	460,000
256	生物	長井 聡道	東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士前期課程 2年	関東山地における半地下棲・地下棲クモの極めて高い種多様性を白日の下に晒す～ホラヒメグモ類を例として～	184,587
257	生物	川原 優人	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科共生博物部門	博士前期課程 2年	日本最西端に位置する与那国島のヤモリ属（Gekko）個体群の種の帰属に関する研究	590,000
258	生物	鮫島 啓太	北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	博士後期課程 1年	魚類の卵形成過程におけるグリコーゲンの役割	530,000
259	生物	毛利 陽香	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻生命科学コース	博士前期課程 1年	日本産タンポポ属植物における網状進化の解明：交雑と倍数化は多様化にどう影響したか？	620,000
260	生物	浜道 凱也	千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース	博士前期課程 2年	種内・種間での形質変異が群れ内での個体間相互作用と個体の利益に与える影響	580,000
261	生物	中西 勇太	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生態学研究センター	修士課程 2年	降湖型サツキマスにおける多様な生活史維持機構の解明：なぜ降湖型で見られない生活史が出現し維持されるか	1,040,000
262	生物	寺井 水萌	東京農業大学大学院地域環境科学研究科林学専攻森林生態学研究室	博士前期課程 2年	温帯山地の標高傾度に沿った菌根菌糸の生産と呼吸速度の変化	960,000
263	生物	松本 幸	横浜国立大学大学院横浜国立大学大学院	博士前期課程 2年	着生菌類と宿主動物は共に種分化してきたか	440,000
264	生物	森井 椋太	岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻地域資源・環境管理学連合講座(配属：弘前大学配属)	博士課程 2年	クロサンショウウオにおける雄間闘争がもたらす繁殖形質の緯度勾配	630,000
265	複合	澤井 舜	京都橘大学大学院健康科学研究科健康科学専攻	博士後期課程 1年	内的焦点と外的焦点による脊椎圧迫骨折患者の立位バランスと脳波の差異	950,000
266	複合	Mundo Rodrigo	金沢大学大学院環日本海域環境研究センター	博士後期課程 2年	黒潮族流海域表層（～300 m）におけるCO2固定への有機汚染物質の影響評価	1,300,000
267	複合	滝田 実優	宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程 1年	低コスト・小型な動脈硬化指標の計測を目標としたパルスオキシメータ型血管内皮機能計測機器の開発	1,050,000
268	複合	四元 まい	広島大学大学院統合生命科学研究所統合生命科学専攻数理生命科学プログラム	博士後期課程 1年	リン脂質分子膜の動的応答を指標とした匂い分析システムの開発	1,100,000
269	複合	諏訪部 晋	名古屋市立大学大学院薬学研究科医療機能薬学専攻	博士課程 4年	経鼻投与を介した脳腫瘍標的化を目指した機能性シトラスレモン由来脂質ナノ粒子の開発と薬物高封入法の検討	1,050,000
270	複合	松井 貴大	北海道大学大学院農学院農学専攻	博士後期課程 1年	果実内部のカビ被害の進行を診る：非破壊評価手法と深層学習による画像診断モデルの開発	1,050,000
271	複合	SAMBAJON SARRAH	高知大学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻	博士課程 3年	フィリピン国マヨン山周辺の農地土壌特性の空間変異評価－異なる農業タイプと在地の土壌知識に着目して－	900,000
272	複合	増田 英敏	東北大学大学院理学研究科地学専攻	博士前期課程 2年	津波堆積物の分布量推定手法の構築と古津波規模評価への適用	950,000
273	複合	櫻井 萌	岡山大学学術研究院環境生命科学研究所	助教	ブリッジマナイトの最大含水量の決定：惑星表層の水の存在可能性に対する制約に向けて	1,050,000
274	複合	有光 潤真	福岡工業大学大学院工学研究科知能機械工学専攻	修士課程 2年	樟脳の紙の分岐パターンの遷移現象	673,495

別表（１）２０２３年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
275	複合	藤井 一弥	国立長寿医療研究センター研究所老年学・社会科学研究センター予防老年学研究部	特任研究員	高齢者のうつ改善および well-being に効果的なプロダクティブアクティビティのパターンの解明	757,693
276	複合	川北 輝	北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士前期課程 2 年	メタバースにおける構成的グループ・エンカウタの効果研究: 孤独の解消を目指して	450,000
277	複合	佐藤 洋太	海洋研究開発機構地球環境部門北極環境変動総合研究センター北極化学物質循環グループ	ポストドクトラル研究員	インドヒマラヤ地域における氷河流出量の推定とそのメカニズムの解明	1,050,000
278	複合	根本 夏林	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程 1 年	インド洋全域の気候変化を駆動するインドネシア通過流の流量変化の復元：新手法ベリリウム同位体の利用	1,190,000
279	複合	林 成一郎	九州大学システム生命科学府システム生命科学専攻	一貫制博士課程 5 年	アミノ酸残基特異的な熱力学・速度論的 NMR 解析が明らかにするタンパク質分子のスムーズな構造変換機構	1,000,000
280	複合	王 梓	北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻海洋計測学講座	博士後期課程 2 年	ニシンの音響散乱特性に関する研究	1,200,000
281	複合	岡本 葵	国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻	修士課程 2 年	医食同源と SDGs から考える海洋深層水ベース食品開発と健康分野への利活用に関する機能性訴求	870,000
282	複合	棚町 兼也	東京都立大学人間健康科学研究科理学療法科学域	特任助教	他動的脳内運動イメージを増強するための tACS を用いたニューロモジュレーション法の萌芽的挑戦研究	1,050,000
283	複合	伊藤 貴仁	横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻	博士後期課程 2 年	細胞外タンパク質を分解するペプチド型 LYTAC の創製	850,000
284	複合	粕谷 拓人	九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻	博士後期課程 1 年	最終間氷期における南米パタゴニア氷原の融解史復元	470,000
285	複合	齊藤 夕貴	筑波大学医学医療系	助教	オレキシンと共存する神経伝達物質による睡眠制御機能の解明	1,100,000
286	複合	吉本 剛瑠	神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻	博士前期課程 2 年	堆積盆の圧密特性から検討する地殻テクニクスとカルデラ火山形成過程の相関	1,030,000
287	複合	新屋 進	摂南大学大学院薬学研究科医療薬学専攻	博士課程 4 年	多剤耐性菌に有効な細菌選択的 MATE 型輸送体阻害剤の創生	750,000
288	複合	濱田 大幹	川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科	助教	遠泳時の生体情報リアルタイム分析による個別最適な溺水事前検知 AI システムの開発	1,091,649
289	複合	吉岡 歩	立命館大学総合科学技術研究機構	専門研究員	社会的インタラクションを支える他者の心的状態の予測と共有の神経基盤の解明	900,000
290	複合	小平 友大	創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程 1 年	メタン発酵消化液とバイオ炭の共施用による環境負荷低減型営農技術の確立	900,000
291	複合	張 昊	金沢大学大学院医薬保健総合研究創薬科学専攻	博士後期課程 3 年	日中両国の自動車排ガス規制により都市大気中多環芳香族炭化水素類の変遷	800,000
292	複合	小野内 摩耶	電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程 2 年	性周期が与える骨格筋パフォーマンスへの影響	550,000
293	複合	瀬川 あすか	三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士前期課程 2 年	海岸林における外生菌根菌の菌糸圏バクテリア群集の探索と樹木の成長に与える影響	1,050,000
294	複合	谷本 泰士	大阪公立大学理学研究科化学専攻	特任助教	光ピンセットを用いた人工細胞膜ドメイン操作による細胞膜機能の創成	900,000
295	複合	畠山 栞	富山大学大学院理工学研究科理工学専攻	修士課程 2 年	人工衛星を用いた立山周辺積雪域の雪氷藻類による赤雪の面的分布評価と環境因子との関係推定	497,753
296	複合	福田 一葉	東京農業大学大学院地域環境科学研究科地域創成科学専攻	博士前期課程 2 年	エンターテイメント要素をもつ情報発信と博物展示法に関する研究－国立公園ビジターセンターを対象として－	800,000
297	複合	作道 悠	日本大学大学院総合基礎科学研究科地球情報数理科学専攻	博士前期課程 2 年	衛星画像を用いた、火星の内部構造を読み解く新しい手法の検討－断層間隔から理解する地殻の厚さ－	500,000
298	複合	伊藤 愛	名古屋工業大学大学院工学研究科共同ナノメディン科学専攻医薬支援ナノ工学部門	博士後期課程 2 年	哺乳類と両生類から探る脊椎動物の陸生適応による心室心筋細胞の力学特性の変化	1,500,000

別表（1）2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（学術研究）

（単位：円）

No.	対象領域	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
299	複合	榎本 沙彩	埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修	博士前期課程 2年	妊娠－出産のライフイベントが女性の変形性膝関節症発症リスクに及ぼす影響の解明	850,000
300	複合	周 詳	東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻	博士後期課程 1年	癒着性小腸閉塞に対する新たな電気刺激治療デバイスの開発	720,720
301	複合	大坂 雄一郎	東邦大学大学院 理学研究科環境科学専攻	博士後期課程 1年	干潟環境における多環芳香族炭化水素（PAHs）の挙動とベントスとの関係	922,595
302	複合	栗野 友太	北里大学大学院感染制御科学府感染制御科学専攻	博士後期課程 1年	ナisinによる放線菌の二次代謝産物生産活性化メカニズムの解明および新規生物活性物質の探索への応用	750,000
						261,553,827

別表（2）2023年度笹川科学研究助成助成対象者一覧表（実践研究）

（単位：円）

No	助成者名	対象領域	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題	確定助成金額
1	城本 高輝	教員・NPO 職員等	長崎国際大学人間社会学部 国際観光学科	准教授	長崎県の海洋地域のワーケーションについての研究－五島・壱岐の海洋資源を活用した関係人口の創出－	340,000
2	諫山 憲司	教員・NPO 職員等	明治国際医療大学保健医療 学部/附属防災救急救助研 究所	教授/副所長	“ふるさとレスキュー”による「こども防災士」 養成による実践的防災人育成プロジェクト	390,000
3	山口 勇気	教員・NPO 職員等	長岡技術科学大学工学部基 盤共通教育系自然科学講座	講師	小学校理科におけるサイエンスショーの教育効 果に関する実践的研究	370,000
4	勝倉 明以	教員・NPO 職員等	名古屋市立東丘小学校	教諭	国語教育を中心とした教科横断的な学習の学習 効果に関する実践的研究	310,000
5	埴 宗継	教員・NPO 職員等	山梨大学大学院総合研究部 医学域基礎医学系解剖学講 座構造生物学教室	特任助教	海なし県“山梨県”における走査型電子顕微鏡を 用いた海産動物の理解促進に関する海洋教育の 実践と普及	310,000
6	高橋 佳久	学芸員・司 書等	北海道博物館	学芸員	文化財害虫（シミ目）に対する簡便な物理的防 除方法の開発－多くの博物館で実践可能な対策 を目指して－	331,670
7	梶原 友美	教員・NPO 職員等	大阪大学大学院医学系研究 科保健学専攻	招聘教員	精神科訪問看護師が実践しているひきこもり支 援の実態と支援構造の明確化	181,117
8	山中 史江	学芸員・司 書等	筑波大学山岳科学センター 菅平高原実験所	技術専門職員	一般市民との協働による生涯学習の場「みんな の標本庫」での菌類及び地衣類標本整備に向け た手法開発	340,000
9	長谷川 暢 子	学芸員・司 書等	国立西洋美術館学芸課教育 普及室	研究補佐員	美術館における聾学校向け教育プログラム開発 のための基礎研究	330,000
10	星野 智	教員・NPO 職員等	京都市動物園種の保存展示 課	畜水産技術者	動物園動物を対象とした栄養管理ソフト開発に 向けたデータベースおよびシステム構築	320,000
11	藤原 博伸	教員・NPO 職員等	(NPO)富士山測候所を活用 する会富士山環境研究セン ター	研究員	市民参加型雷位置評定全国ネットワークの参加 促進用マニュアル構築	390,000
12	山根 真智 子	教員・NPO 職員等	ふじのくに地球環境史ミュ ージアム	インタープリ ター	博物館の資源である収蔵標本や展示を活用した 探究的な学びの実践	310,000
13	河北 秀世	学芸員・司 書等	京都産業大学神山天文台	天文台長	博物館展示方法のデジタル・トランスフォーメ ーション（DX）：天体観測データを例に	330,000
14	下條 光浩	教員・NPO 職員等	福岡工業大学工学部生命環 境化学科	非常勤講師	軽石問題の解決に向けた海底還元の実証試験	370,000
						4,622,787

別表（3）2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
1	頼末 武史	兵庫県立大学自然・環境科学研究所	准教授	International Conference on Marine Bioinvasions XI (ICMB XI)	Mechanisms underlying predator-driven biotic resistance against introduced barnacles in Japan	290,000
2	鈴木 弘朗	岡山大学学術研究院自然科学学域	助教	The 23rd international conference on the science and applications of nanotubes and low-dimensional materials	Surface diffusion-limited Growth of Monolayer WS2 Using Substrate-stacked Microreactor for Optoelectronic Device Applications	279,000
3	張 雅	名古屋大学人文学研究科	博士研究員	2023 AAS-in-Asia Conference	"French Indochina as seen from the Representations of Women Writers in the 1940s—Relationships between Fluctuating 'Empires' as a Circuit"	67,000
4	乗本 裕明	北海道大学	准教授	Gordon Research Conference "Modulation of Neural Circuits and Behavior"	Homeostatic control of two-stage sleep in lizards	384,000
5	笹原 裕太郎	東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門	助教	ASME 42nd International Conference on Ocean, Offshore & Arctic Engineering	Development of Numerical Model of Floating Body With Air Chamber for the Owc-Wec Using Two-Phase Flow Mps Method	278,000
6	鹿又 喬平	大阪大学大学院薬学研究科薬品製造化学分野	助教	23rd Tetrahedron Symposium 2023	Pickering emulsion-mediated dynamic kinetic resolution of alcohols using lipase/sulfonic acid dual catalysis	306,000
7	Lee Kah Hui	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究室	博士課程2年	Heritages: Past and Present - Built and Social (Prague)	Disruptor of Community Life to New Sites of Heritage: Heritageisation of Queenstown	256,000
8	溝上 祐介	東京薬科大学生命科学研究科応用生態学研究室	助教	Gordon Research Conference "CO2 assimilation in Plants from Genome to Biome"	Cost-Benefit Analysis of Mesophyll Conductance - Favoring Less H2O Loss or More CO2 Gain?	223,000
9	岡和田 愛実	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室	特任助教	World Physiotherapy Congress 2023	Quantitative evaluation of spasticity of post-stroke patients in the chronic phase	256,000
10	吉川 貴子	東北大学大学院医学系研究科発生発達神経科学分野	助教	34rd CINP World Congress of Neuropsychopharmacology	Sex Differences In Regulation Of FMRP mRNA Targets During Brain Development	291,460
11	岡 智絵美	東海国立大学機構名古屋大学大学院工学研究科マイクロ・ナノ機械理工学専攻マイクロ・ナノプロセス工学研究グループ	助教	16th International Conference on Magnetic Fluids (ICMF 2023)	Organic-inorganic microparticles produced by heat dissipation of magnetic nanoparticles	299,000
12	Frederic Sinniger	琉球大学熱帯生物圏研究センター	ポスドク研究員	Asia Pacific Coral Reef Symposium	Scleractinian biodiversity at the deepest edge of the reef in Japan	235,000
13	岡本 俊輔	日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻獣医学衛生学研究室	4年制博士課程3年	The 3rd Joint Meeting of Veterinary Science in East Asia	Inhibition of Japanese encephalitis virus replication with RNase H-dependent gapmer antisense oligonucleotides	118,000
14	田淵 絢香	電気通信大学情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士後期課程3年	2023 ACSM Annual Meeting & World Congresses	Suppressed Intracellular calcium ion accumulation with repeated bouts of eccentric contractions in rat skeletal muscle	294,000
15	堀口 元氣	東京薬科大学大学院生命科学研究科生命科学専攻応用生態学研究室	学振特別研究員PD	CO2 Assimilation in Plants from Genome to Biome Gordon Research Conference	The mechanisms of underwater photosynthesis in the amphibious plant Hygrophylla difformis	383,000
16	SUN JINGYAN	東京大学学際情報学府文化・人間情報学コース岡田猛研究室	博士後期課程3年	2023 Creativity Conference at SOU	The different interaction characteristics manifested by novice and professional actors in acting training	261,000
17	片山 蒼	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士課程1年	10th International Crustacean Congress	Annual and lunar breeding rhythmicity in the acorn barnacle Tetralita kuroioensis Chan, Tsang & Chu, 2007 in Okinawa, Japan	232,000
18	藤原 奈央子	大阪大学大学院生命機能研究科RNA生体機能研究室	研究員	The 28th Annual Meeting of the RNA Society	Functional analysis of MPP6, a nuclear RNA exosome complex cofactor, using human cells	247,283

別表（3）2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
19	木田 拓 充	滋賀県立大学工学部材料 化学科	講師	8th Pacific Rim Conference on Rheology (PRCR2023)	Influences of Shape of Molecular Weight Distribution on Tensile Properties of Polyethylene Solids	284,000
20	徳久 悟	九州大学芸術工学研究院	准教授	ServDes 2023	Rapid Service Design Method for Services with Robots in Healthcare Facilities in the COVID-19 Situation	364,000
21	渡邊 知 央	川崎医療福祉大学大学院 医療技術学研究科健康科 学専攻	博士後期課程 3 年	The 28th Annual Congress of the European College of Sport Science	Preventive effect of exercise on depression-like behavior via decreasing hippocampal TSPO	279,000
22	小川 翔 子	埼玉大学理工学研究科理 工学専攻生命科学コース	博士後期課程 2 年	20th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (ICBIC20)	Understanding and rational alternation of tetrapyrrole substrate selectivity of nickelochelatase CfbA	243,000
23	田邊 智 子	京大生大生存圏研究所大 気圏環境情報分野	研究員	International Boreal Forest Research Association (IBFRA) Conference	Interannual dynamics of aboveground production classified by apical and cambium growths and its drivers in Picea mariana	360,000
24	豊田 紘 子	千葉経済大学経済学部経 済学科	講師	the 17th International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS 2023 conference)	The Formation of Fruit-growing Regions and the Development of Fruit Exports in Modern Japan: Focusing on Mandarin Oranges	227,000
25	鄭 臨潔	京都大学化学研究所水圏 環境解析化学研究部門	助教	Goldschmidt 2023	Basin-scale distributions of 9 trace metals (Al, Mn, Fe, Co, Ni, Cu, Zn, Cd, and Pb) in the entire Pacific Ocean	349,000
26	河村 理 輝	東京工業大学生命理工学 院	学振特別研究員	The XXIII International Congress of Genetics	Function Divergence of Cichlid Candidate Pheromone Receptor V1R2	195,000
27	森口 紗 千子	日本獣医生命科学大学獣 医学部獣医学科野生動物 学研究室	ポストドクター	20th Goose Specialist Group Meeting	Recent HPAI outbreak in Japan: The reality of surveillance and changes in highly pathogenic avian influenza infection status	138,000
28	佐賀 達 矢	神戸大学大学院人間発達 環境学研究科人間環境学 専攻佐賀達矢研究室	助教	The 10th East-Asian Federation of Ecological Societies International Congress	Understanding Traditional Entomophagy: An Environmental Education Program for High School Students in Japan	121,000
29	NAM Dayeon	自然科学研究機構	特任研究員	20th International Conference on Biological Inorganic Chemistry	Iron sensing by sensor kinase, VgrS, responsible for intracellular iron homeostasis	253,000
30	塩沢 健 太	北里大学理学部物理学科	講座研究員	XII. International Symposium on Quantum Theory and Symmetries (QTS-12)	T-duality relations between hyperphaler and bi- hypercomplex structures	270,000
31	西野 龍 平	京都大学化学研究所有機 元素化学研究室	博士研究員	17th International Conference on the Coordination and Organometallic Chemistry of Germanium, Tin and Lead.	Synthesis of Germabenzylgermylene Lewis-base Complexes Useful for Germanium Transfer	258,000
32	豊島 理 公	筑波大学人間系	特任助教	11th International Brain Research Organization (IBRO) World Congress of Neuroscience	EXPERIENCE-DEPENDENT MODULATIONS OF SOCIAL BEHAVIORS TOWARD A DISTRESSED CONSPECIFIC TREATED WITH LITHIUM CHLORIDE IN RATS	314,000
33	片野 亘	東洋大学大学院生命科学 研究科生命科学専攻動物 発生システム研究室	博士後期課程 3 年	Society for Developmental Biology 82th Annual Meetig	Sall1/4 are critical for sinoatrial node formation through the regulation of Bmp signaling in developing mouse heart	60,354
34	小野寺 章	神戸学院大学薬学部生体 機能制御学研究室	助教	The 10th International Congress of Asian Socirty of Toxicology	Cellular immunity response of dendritic cells is reduced by intracellular accumulation of suspended particulate matter	129,000
35	宇野 友 里花	東京大学大学院理学系研 究科地球惑星科学専攻	博士後期課程 2 年	International Congress of Vertebrate Morphology: ICVM 2023	The propatagium as an evolutionary novelty in the lineage towards birds	246,000

別表（3）2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
36	川田 紘次郎	東京大学	特任研究員	The 24rd international conference on plant growth substances	Development of a novel compound as strigolactone biosynthesis inhibitor	131,000
37	相原 隆貴	筑波大学生命環境科学研究科	博士後期課程3年	The 10th EAFES International Congress	Distinct features of growth performance decline and genetic factor in <i>Betula ermanii</i> saplings from high-altitude and low-latitude range edges	117,000
38	相澤 彩美子	慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻有機物質化学研究室	博士後期課程2年	Dynamics Days Europe 2023	Spontaneous generation of Liesegang ring-like concentric precipitation patterns by continuous injection of dye solution into porous media associated with solvent evaporation	321,000
39	茨田 匡	東京都市大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻	博士後期課程3年	7th Conference on Wind energy and Wildlife impacts	Potential Impacts and Countermeasures of Bird Collision on Small Wind Turbines in Japan	300,000
40	宮田 紘平	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系身体運動科学研究室	助教	Entrainment Workshop	Effects of imitative interaction on interpersonal behavioral and neural synchronization	263,000
41	春井 彩花	神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻栗原研究室	博士後期課程3年	Nutrition 2023	Effect of Saccharina japonica Intake on Blood Pressure and Gut Microbiota Composition in Hypertensive Rats	275,000
42	丸山 遥香	東京農工大学大学院工学府電子情報工学専攻物理応用工学専修	博士後期課程3年	The XXXIII International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions	Spin-dependent metastable He (23S) atom scattering from Fe ₃ O ₄ (100) surfaces	316,000
43	岡田 達典	東北大学金属材料研究所	助教	2023 Cryogenic Engineering Conference and International Cryogenic Materials Conference (CEC-ICMC2023)	Numerical evaluations on angular dependence of J _c in REBCO coated conductors due to spherical pins and columnar pins	292,000
44	榎本 孝晃	岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻（山形大学配属）	博士後期課程3年	The 10th EAFES International Congress	Comparison of spatio-temporal niche of the four introduced carnivores on Okushiri Island, northern Japan	98,000
45	奥田 綾	京都大学複合原子力科学研究所粒子線基礎物性研究部門粒子線物性学研究分野	助教	Twenty-Sixth Congress and General Assembly of the International Union of Crystallography (IUCr 2023)	Development of efficient multiple domain ligation method for proteins	293,000
46	石井 希実	群馬大学	助教	26th International Symposium on Glycoconjugates (GLYCO26)	Evaluating the substrate specificity of PNGases using synthetic glycopeptides	167,000
47	長田 浩一	東北大学	助教	International Congress on Pure and Applied Chemistry	Synthesis and Properties of a	171,922
48	田村 嘉章	富山大学理工学教育部ナノ新機能物質科学専攻ナノ物理学研究室畑田グループ	博士後期課程2年	XXXIII International Conference on Photonic, Electronic and Atomic Collisions	Higher multipolar terms on core-level photoemission time delay of homonuclear diatomic molecules	302,000
49	三隅 貴史	関西学院大学社会学部	特任助教	2023 Annual Meeting of the American Folklore Society	Why Were "Ward off the Plague" Emphasized in Japanese Traditional Festivals during the COVID-19 Pandemic?: A Case Study of the Festivals in Gifu Prefecture, Japan	203,000
50	ASTRI NUR FAIZAH	国立感染症研究所昆虫医科学部第二室	学振特別研究員	Entomology 2023 「Insects and Influence: Advancing Entomology's Impact on People and Policy」	Investigating the avian/mammalian blood meal source and RNA virome of Japanese encephalitis virus vectors collected in Japan	36,861

別表（3）2023年度海外発表促進助成助成対象者一覧表

（単位：円）

No.	助成者名	所属機関：名称	所属機関：職名	集会名称	発表題目	確定額
51	森 俊郎	名古屋大学大学院教育発達科学研究科	博士課程1年	Educational Research Association of Singapore International Conference and the World Education Research Association Focal Meeting (ERAS-WERA)2023	Production and Use of Evidence in Education - From a Review of the Actual Situation in Japan-	181,000
52	谷吉 和貴	京都大学大学院農学研究科農学専攻作物学研究室	助教	6th International Rice Congress 2023	Different mechanisms underlying the rapid photosynthetic induction response to light transitions among rice cultivars	196,000
53	元井 直樹	神戸大学	准教授	IEEE International Workshop on Metrology for the Sea	Experimental Verification of Underwater 2-ch Bilateral Controller with Disturbance Observer	315,000
54	岡部 光太	京都市動物園種の保存展示課	畜水産技術者	International Zoo Educators Conference 2023	Effects of interpretation activities on animal welfare through carcass feeding to jaguars on zoo visitors' egg purchase attitudes.	243,000
55	溝口 貴正	千葉大学大学院薬学研究院	助教	Zebrafish disease models society annual conference	Analysis of the effects of aging on the pathophysiology and recovery process of a cerebral infarction model.	303,000
56	久保田 達矢	国立研究開発法人防災科学技術研究所	主任研究員	AGU Fall Meeting 2023	Reliable Stress-drop Estimation of the 2011 Tohoku-Oki Earthquake Using Tsunami Records Just Above the Large Slip Area Reveals the Mechanics of Trench-breaching Coseismic Slip	356,000
57	門田 宏太	島根大学大学院自然科学研究科創成理工学専攻自然環境システム科学コース応用微生物学研究室	博士後期課程1年	FIFTH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON THE NITROGEN NUTRITION OF PLANTS (Nitrogen 2023)	Effects of root-specific reduction of cytokinin perception on the shoot growth under different nitrogen conditions	226,000
58	岩崎 優	東京家政大学大学院人間生活学総合研究科人間生活学専攻	博士課程3年	15th International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF 2023)	Mechanism of hydroxyproline-containing peptide cyclization after ingestion of collagen peptide	192,000
59	安倍 悠朔	早稲田大学大学院創造理工学研究科総合機械工学専攻松田研究室	博士後期課程2年	76th Annual Meeting of the APS Division of Fluid Dynamics	Evaporation induced self-assembled structures of carbon nanotubes	319,000
60	曾 小蘭	東北大学大学院国際文化研究科アジア・アフリカ研究講座	博士後期課程5年	翻譯與權力：第四屆中國翻譯史國際研討會	探析張資平的革命文學之路——以譯介《無產階級文藝論》為例——	21,616
61	真野 叶子	東京都立大学理学研究科生命科学専攻神経分子機能研究室	博士後期課程3年	Neuroscience 2023	The depletion of axonal mitochondria impairs autophagy via eIF2 signaling	240,000
62	PRANSHU BHATIA	創価大学理工学部	ポストドクトラルフェロー	9th IWA-ASPIRE Conference and Exhibition 2023: One Water for Smart Cities	Evaluating the treatment performance of an up-flow anaerobic sludge blanket reactor using water hyacinth juice as substrate	174,000
63	出利葉 拓也	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科	博士後期課程3年	Neuroscience 2023 (Society for Neuroscience)	Overflowing items from working memory are retrieved rhythmically	184,000
						15,027,496

別表（４）２０２３年度笹川科学研究奨励賞受賞者一覧表

	研究領域	助成者名	性別	国籍	所属機関：名称	所属機関：職名	研究課題
1	人文・社会	土井 冬樹	男	日本	神戸大学国際文化科学研究推進インスティテュート	協力研究員	伝統芸能の舞台化と近代化：先住民マオリの伝統芸能大会の開催とその変遷
2	人文・社会	千歩 弥生	女	日本	中央大学大学院文学研究科社会学専攻	博士後期課程3年	ハンセン病療養所退所者のライフストーリー研究ー各地域における多様な社会関係に着目して
3	数物・工学	澤原 馨登	男	日本	筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学研究群化学学位プログラム	博士課程2年	脱炭素社会に向けた“連続した高圧水素供給”のためのギ酸脱水素化用固定化錯体触媒の開発
4	数物・工学	Acharya Ashis	男	ネパール	島根大学大学院総合理工学部地球科学科	博士課程1年	分散型光ファイバーセンシングを用いた深部基盤岩内の地質水文モニタリング
5	化学	田中 駿乃介	男	日本	千葉大学大学院融合理工学府	博士後期課程2年	水素発生反応を高活性化する有機物の反応中界面構造と活性化因子解明
6	化学	中川原 亜依	女	日本	群馬大学大学院理工学部物質・生命理工学教育プログラム	博士前期課程2年	1本の疎水鎖末端をフッ素化した新規部分フッ素化リン脂質シリーズの開発
7	生物	村岡 勇樹	男	日本	東北大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程3年	アメリカネムノキの葉の運動を駆動する温度センサーイオンチャンネル SPORK2 の温度感知機構の解明
8	生物	高橋 大輔	男	日本	埼玉大学大学院理工学研究科	助教	Selaginella 属植物の高い乾燥耐性に寄与する細胞壁コンポーネントの解明
9	生物	勝浦 柊	女	日本	名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻	博士後期課程2年	カンボジア熱帯季節林における樹木の吸水深度特性の解明ー気候変動に対する樹木の応答予測を目指してー
10	生物	原 直子	女	日本	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科化学生物環境学専攻	博士前期課程2年	濾過食者シマトビケラの生態機能を定量評価する：ダム下流域における浄化機能を最大化する川作りを目指して
11	複合	四元 まい	女	日本	広島大学大学院統合生命科学部研究科統合生命科学専攻数理生命科学プログラム	博士後期課程1年	リン脂質分子膜の動的応答を指標とした匂い分析システムの開発
12	複合	川北 輝	男	日本	北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士前期課程2年	メタバースにおける構成的グループ・エンカウンタの効果研究：孤独の解消を目指して
13	海洋関連研究	高橋 亮一	男	日本	國學院大学文学部史学科	非常勤講師	大正・昭和期日本における海洋生物保護の展開ーラッコ・オットセイを中心にー
14	海洋関連研究	君塚 政文	男	日本	東京都産業技術高等専門学校ものづくり工学科機械システム工学コース	助教	小型波浪観測ブイにおける評価方法の開発と最適筐体形状の解明
15	実践	勝倉 明以	女	日本	名古屋市立東丘小学校	教諭	国語教育を中心とした教科横断的な学習の学習効果に関する実践的研究
16	実践	高橋 佳久	男	日本	北海道博物館	学芸員	文化財害虫（シミ目）に対する簡便な物理的防除方法の開発ー多くの博物館で実践可能な対策を目指してー

別表（5）2023年度サイエンスメンタープログラム研究一覧表

No.	氏名	学校名	学年	性別	研究テーマ	メンター氏名	所属先
1	青山 庵	安田学園高等学校	3年生	男	クロマルハナバチで見られる倍数化が行動に及ぼす影響	澗側 太郎	大阪公立大学
2	濱野 慧	佼成学園高等学校	1年生	男	福地層(下部デボン系)の岩石から産出する微化石	足立 奈津子	大阪公立大学
3	金井 海翔	成城高等学校	3年生	男	市販塩からの高度好塩菌の分離および分類	黒沢 則夫	創価大学
4	森川 留衣	兵庫県立龍野高等学校	2年生	女	フォトクロミズムについて	近藤 瑞穂	兵庫県立大学
5	青木 英那	土浦日本大学高等学校	2年生	女	淡水藻類廃棄物から肥料及びバイオスティミュラントを開発する	國頭 恭	信州大学
6	大坂 唯歩稀	青森県立三沢高等学校	2年生	男	閉鎖空間における物質の循環	鈴木 祥弘	神奈川大学
	津島 めい		2年生	女			
	平野 友麻		2年生	男			
7	小宮山 莉子	洗足学園高等学校	2年生	女	鳴き声の分析によるリスザル(<i>Saimiri sciureus</i>)の刺激の可視化	西村 剛	京都大学
8	岩波 晴之	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2年生	男	第二世代バイオマスエタノールに適した酵母の探索	藤井 克彦	工学院大学
	齊藤 奏斗		2年生	男			
9	松柳 佳奈	BYU online high school	2年生	女	Neurofeedback for Anorexia — RelaxNeuron — Aimed in Dissolving the Root Neuronal Cause	吉田 貴寿	東京大学
						村本 哲哉	東邦大学
10	付 聖宣	聖光学院高等学校	1年生	男	深層強化学習を用いたヒューマノイドロボットの二足歩行における0人間らしさの探求	東郷 俊太	電気通信大学
11	銭谷 憧空	静岡県立三島北高等学校	2年生	男	ムペンバ効果について	藤田 貢崇	法政大学
	尾崎 舜		2年生	男			
	山本 果奈		2年生	女			
12	三宅 明信	東京都立小石川中等教育学校	1年生	男	金樹の成長プロセスの解明	米澤 宣行	東京農工大学名誉教授
	17名	12校			12研究	メンター：16名	

別表（6）役員名簿

（2024年3月31日現在）

役職	常勤・ 非常勤	氏名	就任 年月日	担当職務	現職 (専門分野)
会長	非常勤	高橋 正征	2020年 6月30日	業務の議決 ・執行等	東京大学名誉教授 高知大学名誉教授 (生態学)
常務理事	常勤	石倉 康弘	2018年 6月15日	会長補佐 日常業務の執行等	(公財)日本科学協会常務理事 (公益法人業務)
同	同	佐々木 文君	2017年 6月28日	日常業務の執行等	(公財)日本科学協会常務理事 (公益法人業務)
理事	非常勤	川口 春馬	2012年 4月1日	業務の議決・執行等	慶應義塾大学名誉教授 (工学、応用化学、高分子合成)
同	同	木村 龍治	同	同	東京大学名誉教授 (気象、海洋、陸水学)
同	同	和崎 春日	同	同	中部大学名誉教授 京都精華大学アフリカ・アジア現代文化研究セ ンター客員教授 (文化人類学)
同	同	室伏 きみ子	2020年 6月30日	同	お茶の水女子大学名誉教授 ビューティ&ウェルネス専門職大学 学長 (細胞生物学、生化学、科学教育)
同	同	渡邊 雄一郎	同	同	東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系 教授 (生物学・分子生物学、農学・植物病理学)
監事	非常勤	菅井 明則	2016年 6月10日	業務執行等の監査	(公財)日本財団バラスポーツサポートセンター 常務理事
同	同	馬目 利昭	2020年 6月30日	同	馬目公認会計士事務所代表

別表（7）評議員名簿

（2024年3月31日現在）

役職	常勤・非常勤	氏名	就任年月日	担当職務	現職 (専門分野)
評議員	非常勤	門野 泉	2012年 4月1日	決算の承認等	清泉女子大学名誉教授 (公財)東京財団政策研究所理事長 (英国ルネッサンス演劇、比較演劇学)
同	同	西原 祥子	2016年 6月10日	同	創価大学糖鎖生命システム融合研究所所長・教授 (糖鎖生物学)
同	同	前野 隆司	同	同	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授 (システムデザイン・マネジメント、ロボティクス、幸福学、感動学、協創学等)
同	同	前田 晃	2017年 11月14日	同	(公財)日本財団専務理事
同	同	境 浩光	2020年 6月30日	同	(株)科学新聞社代表取締役
同	同	竹本 和彦	同	同	(一社)海外環境協力センター理事長 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
同	同	中村 和生	同	同	北里大学名誉教授 (生化学)
同	同	山崎 壮	同	同	実践女子大学生活科学部食生活科学科教授 (食品衛生学、食品学、天然物化学)

2023年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

前記のとおり相違ありません。

2024年 5月 7日

公益財団法人 日本科学協会

代表理事（会長） 高橋 正 征

2023年度事業報告書は、法令及び定款に従い、本会の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

2024年 5月16日

公益財団法人 日本科学協会

監 事 菅 井 明 則 印

監 事 馬 目 利 昭 印

